

平成24年第5回糸魚川市議会定例会会議録 第2号

平成24年12月7日(金曜日)

議事日程第2号

平成24年12月7日(金曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 26名

出席議員 25名

1番	甲村聰君	2番	保坂悟君
3番	斉木勇君	4番	渡辺重雄君
5番	古畑浩一君	6番	後藤善和君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	久保田長門君	10番	保坂良一君
11番	中村実君	12番	大滝豊君
13番	伊藤文博君	14番	田原実君
15番	吉岡静夫君	16番	池田達夫君
17番	五十嵐健一郎君	18番	倉又夫稔君
20番	樋口英一君	21番	松尾徹郎君
22番	野本信行君	23番	斉藤伸一君
24番	伊井澤一郎君	25番	鈴木勢子君
26番	新保峰孝君		

欠席議員 1名

19番 高澤公君

説明のため出席した者の職氏名

市	長	米田	徹	君	副	市	長	本間	政一	君
総務部	長	金子	裕彦	君	市民部	長	吉岡	正史	君	
産業部	長	酒井	良尚	君	総務課	長	渡辺	辰夫	君	
企画財政課	長	斉藤	隆一	君	能生事務所	長	久保田	幸利	君	
青海事務所	長	木下	耕造	君	市民課	長	竹之内	豊	君	
環境生活課	長	渡辺	勇	君	福祉事務所	長	加藤	美也子	君	
健康増進課	長	岩崎	良之	君	交流観光課	長	滝川	一夫	君	
商工農林水産課	長	斉藤	孝	君	建設課	長	串橋	秀樹	君	
都市整備課	長	金子	晴彦	君	会計管理者会計課	長	結城	一也	君	
ガス水道局長		小林	忠	君	消防	長	小林	強	君	
教育	長	竹田	正光	君	教育次長		伊奈	晃	君	
教育委員会	こども課	長	吉田	一郎	教育委員会教育総務課	長	兼務			
教育委員会	文化振興課	長	佐々木	繁雄	君	教育委員会生涯学習課	長			
歴史民俗資料館	長	兼務			中央公民館	長	兼務	田原	秀夫	君
長者ヶ原考古館	長	兼務			市民図書館	長	兼務			
					勤労青少年ホーム館	長	兼務			
					監査委員事務局	長	横田	靖彦	君	

+

+

事務局出席職員

局	長	小林	武夫	君	主任	主	査	水島	誠仁	君
主	査	大西	学	君						

午前10時00分 開議

議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、高澤 公議員であります。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（古畑浩一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、9番、久保田長門議員、22番、野本信行議員、兩名を指名いたします。

次の日程に入ります前に、昨日6日に議会運営委員会が開かれておりますので、その経過と結果について委員長の報告を求めます。

甲村 聡議会運営委員会委員長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村委員長。〔1番 甲村 聡君登壇〕

1番（甲村 聡君）

おはようございます。

昨日12月6日に議会運営委員会が開催されておりますので、その経過と結果についてご報告いたします。

まず、追加議案についてであります。初日に委員長報告をしてあります。糸魚川市議会政務調査費の交付に関する条例の一部を改正する条例の改正について調整が整ったことにより、議案第178号として、また、議案第179号として、平成24年度糸魚川市一般会計補正予算（第11号）の2件を追加提案いたしたい旨、市長から申し出があり、11日の一般質問終了後の日程事項とし、議案第178号については総務文教常任委員会、議案第179号については建設産業常任委員会へそれぞれ付託の上、審査願うことで、委員会の意見の一致をみております。

また、議会改革については、議会基本条例、倫理規程、報酬等について協議を行っており、引き続き協議を進めていくことで委員会の意見の一致をみております。

以上で、議会運営委員会の委員長報告を終わります。

議長（古畑浩一君）

これより、ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りをいたします。

ただいまの委員長報告のとおり進めたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

ご異議なしと認めます。

よって、委員長報告のとおり進めることと決しました。

日程第2．一 般 質 問

議長（古畑浩一君）

次に、日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は14名ですが、議事の都合により本日5人、10日5人、11日4人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き1人30分であります。

所定の時間内に終わりますよう質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いをいたします。

それでは、通告順に発言を許します。

斉藤伸一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。〔23番 斉藤伸一君登壇〕

23番（斉藤伸一君）

おはようございます。

発言通告書に基づき一般質問を行いますので、よろしくお願いいいたします。

1、自殺予防対策の取り組みについて伺います。

(1) 当市における自殺率の年次推移及び年齢層、職業等の状況は。

(2) 自殺対策の推進の取り組みは。

2、スポーツ推進について伺います。

(1) スポーツ施設の整備状況。

能生体育館改築の現状と今後の予定は。

総合体育館の将来展望は。

(2) スポーツ大会の開催と誘致の取り組みは。

(3) 競技スポーツの振興についての取り組みは。

3、省エネの取り組みについて伺います。

(1) 公共施設のLED化の状況と今後の考えは。

(2) EV車（電気自動車）の導入の状況と今後の予定は。

4、いじめと児童虐待について伺います。

(1) 現在の状況は。

(2) 今後の取り組みと対応は。

5、糸魚川駅前通りアーケード等整備状況について伺います。

(1) 無電柱化工事の整備状況は。

(2) アーケードの取り付け状況は。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

斉藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、年次推移は減少傾向にあり、男性は50歳代と70歳代に多く、

女性は高齢者に多く、そういう傾向にございます。職業では、無職の方に多く見られます。

2点目については、糸魚川地域自殺対策推進協議会を設置し、各種団体が連携をする中で防止対策に取り組んでおり、特に今年度から、働き盛りへの取り組みを強化いたしております。市でも相談会や研修会、講座、講演会などを実施いたしております。

2番目のスポーツ推進のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

3番目の1点目につきましては、現在、市役所本庁舎のほか小中学校3カ所、地区公民館など生涯学習施設9カ所の照明に導入をいたしております。今後も施設の改築や改修に際して、部屋の利用目的にあわせてLED化を進めてまいります。

2点目につきましては、今年度1台導入いたしております。今後も環境に配慮した自動車の導入を検討してまいります。

4番目のいじめと児童虐待のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

5番目の1点目につきましては、現在、県道の東側歩道において既存埋設管の移設、共同溝の敷設が完了いたしまして、仮舗装いたしております。今後、西側の工事も着手され、来年度には完了し、26年度中に歩道舗装の本復旧が予定をいたしております。

2点目につきましては、糸魚川駅前銀座商店街振興組合において、集客力と売り上げの向上を図るための地域商店街活性化計画の作成、並びにアーケード再構築の設計について組合理事から組合員へ事業説明が行われております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

おはようございます。

斉藤議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目の1つ目につきましては、体育館を基本として改築するという市の方針を定め、所管の委員会へ報告を行っております。今後、建築位置を決定して、26年度の建築に向けて実施設計を発注してまいります。

2つ目につきましては、既存の体育館を改修し、長寿命化を図ることといたしております。

2点目につきましては、市内各種スポーツ大会等を体育協会や加盟団体との連携により開催しております。大会の誘致については、各種競技団体が県あるいはブロック大会を開催しており、今後も関係団体等と連携し、機会を捉えて誘致を図りたいと考えております。

3点目につきましては、体育協会、学校、各種協議団体等と連携し、競技力向上のための支援を行っております。

4番目の1点目、いじめについてのことし10月末までの認知件数は、小学校3件、中学校7件の横ばい状態であり、現在は全て解消しております。虐待については、同じく10月末現在の延べ

件数で55件となっており、減少傾向にあります。

2点目につきましては、いじめ、虐待ともに早期発見、市への速やかな報告、チームによる解消の取り組み、関係機関との連携強化、解消後の継続的な支援を基本に進めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

それでは、2回目の質問に移らせていただきます。

1点目の自殺予防対策の取り組みについてであります。1回目の質問で自殺率の年次推移、これがまだ市長のほうから答弁がなされていませんでしたので、この自殺率年次推移をちょっと教えていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

おはようございます。よろしく申し上げます。

市長のほうから、年次推移の傾向ということで説明させていただきましたが、具体的な数字といたしましては、平成18年が22人、19年が19人、20年が13人、21年が17人、22年が8人、平成23年が16人となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

私は自殺率の推移ということで質問したわけであり、自殺率というのは人口10万人に対する比率の割合のことを言うわけであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

大変申しわけございませんでした。

自殺率につきましては、平成18年が44.6、平成19年が39.0、平成20年が26.9、平成21年が35.6、平成22年が16.8、平成23年が、おおよそ33.0でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

今の答弁を聞きますと、18年からの推移を見ますと大体44から35ぐらい、ただし平成22年が16.8と極端に少ないわけなんですありますが、これは糸魚川市の取り組みの成果が、あらわれてきたのかということだと思っただけですが、23年度になるとまた33と急に上がってわけなんで、この平成22年の16.8という数値について、どう分析してるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

過去からの当市の自殺の傾向といたしましては、高齢者の方が多いような傾向がございまして、市のほうでもいろんな機会を見つける中で、高齢者に例えば健康診断のときにアンケートをして、鬱の傾向のあるような方は、訪問させていただいたりして取り組んでおりました。そういう中で平成18年、平成19年は50歳代の方が大変多くなりまして、そこで数字がふえております。比較的高齢者で多いのは70歳代でございますが、ここにつきましては、おおむね3人から4人ぐらいの方が、毎年亡くなっているような状況でございまして、平成22年の減少につきましては、先ほどの働き盛りの方が減少したことが、大きい要因だと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

ここに新潟県精神保健福祉センターが出した、平成23年の統計のやつがあるんですが、これでは平成23年では全国の自殺率というのは22.9、それから新潟県では27.7。今の状態では、新潟県の平均で27.7なのに糸魚川市の場合は33、自殺率は高いんですね、県の平均よりも高い。ということから新潟県内の順位、これは27.7が平均ですから平成23年度の平均、糸魚川市がどれぐらいなのか教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

大変申しわけないんですけど、23年につきましては、まだ県内の順位が出ておりませんで、過去の傾向からいきますと、さっき一番多かった平成18年は県内で27位でございますし、その後、23から19、21、22位という形で推移してきております。おおむね、20から25ぐらいかなというふうに思っております。年によって、県の平均を上回ったり、下回ったりしているのが現状でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

確かに自殺の人数からいけば少ないかもしれませんが。ただし自殺率に置きかえてみると、23年度、新潟県の平均が27.7にもかかわらず糸魚川市33、とてつもない高さの自殺率なんですよ。取り組みを一生懸命やってるにもかかわらず、新潟県も23年度は全国でも4番目に高い自殺率、その中でも糸魚川市が特に特筆して高くなっている。この高い原因について、どう判断しているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

お答えいたします。

高齢者の方の自殺の数が多いことが、やはり1つベースだと思っておりますし、さらには働き盛りの方の推移によってふえてきたりしておりますし、取り組みといたしましては、先ほど申しましたように、いろんな相談窓口を設けておりますし、さらにいろんなアンケート調査の結果を踏まえながら福祉事務所と連携しながら、保健師が訪問をさせていただいております。

過去の数字を見ますと平成23年は訪問したのが約300件ですし、精神相談がやはり300件とふえておりますし、特に多いのは電話相談ですね、それまで大体300件前後だったんですけど、600件の電話相談がありまして、そういう面で、やはり精神的に悩まれる方がふえているのかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

自殺の年齢層も50歳代が一番高いということは、50歳代の方は働き盛りの一番管理職あたりになる、ストレスもたまっていくということは、企業関係とかそういうところにも糸魚川市が相談をしたりして心のケア、本当に50歳代にストレスがたまらないための風通しのいい職場づくりというのも、必要になるのではないかと考えております。

新潟県は糸魚川地域自殺対策推進協議会職域部会を立ち上げておりますが、糸魚川市は職域部会に所属しているのでしょうか。また、この部会のメンバーというものは、どういう機関及び団体が入っているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

県の糸魚川地域自殺対策推進協議会に糸魚川市も加盟しておりますし、ことしからその中で特に職域部会というものを設けさせていただきまして、その中には医療関係者と行政、あと会社、会議所等いろんな方々が入っておりますし、当然、糸魚川市も参加をさせていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

それでは今年度の職域部会で取り組んでいる実施している自殺予防対策のもの、どういうことを行っているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

今年度は立ち上げたということなので、まず、いろんな関係者が集まる中で会議をさせていただく中で、各事業所や、いろんな団体の相談窓口の担当者の方のヒアリングをさせていただいたり、あと事業所を通じての普及啓発ということで、商工会議所や商工会、あと連合など、構成団体の皆様に、そういうチラシを配布する中で啓発をさせていただいたり、また、事業所向けのメンタル研修会をさせていただいたり、あと窓口担当者の研修会などをさせていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

自殺率についても減少状態になってきておりますが、先ほどから何回も申しますが、新潟県というのは全国でも自殺率については上位を占めている。それで県もこの自殺予防については、大変大きく力をつけて一生懸命取り組んでいる。今ほど課長のほうから18年からの推移を聞かせていただいたんですが、新潟県の平均よりも糸魚川市が、それ以上に自殺率が多いということをよく肝に銘じて、ぜひ自殺予防について、低下に向けて取り組みを行っていただきたい。このことを申し上げておきます。

続きまして、スポーツに移ります。

総務文教常任委員会での説明では、事業費については約5億円を予定しているとのことでありましたが、旧サンエー店舗跡地を利用する用地購入費が、この予定されている5億円の中には含まれていない、こういう説明でありましたが、これから交渉に入るといっておりますが、一般的には、この土地購入費というのはどれぐらいなのか。要は今回の能生体育館について約5億円を予定している。プラスこのサンエーの土地購入も含めて、全体でどれぐらいを予定しているのかお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午前10時27分 休憩

午前10時29分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

まず単価につきましては、これから市が近傍の地価公示価格等を参考にしまして、また、それだけでは計算できませんので不動産の鑑定評価をお願いをするという、これからの予定でございます。その結果によりまして、これから地権者の方と協議をしてみたいということでございますので、先ほどの店舗跡の用地購入費については、今の段階では差し控えさせていただくということで、お願いいたします。

以上でございます。

議長（古畑浩一君）

議長といたしましては、ただいまの申し出につきましては妥当と考え、修正につきましては、認めるということにさせていただきたいと思っております。

齊藤議員は、以下の質問につきましては、現在の答弁につきましては、そのようなことであるとお含みをいただきまして、質問を続けていただきたいと思います。

それでは斉藤議員、どうぞ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

総文のこの資料によりますと、今後の協議等につきましては、能生地域審議会、能生体育館検討協議会へ市の方針を報告するとあります。その後の経過について伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

体育館の改築につきまして市の方針を定めましたので、これから18日でございますが、能生地域の審議会がございます。そこに説明をして理解を求めてまいります。また、改築の検討協議会につきましては、基本方針を取りまとめていただきましたので、この協議会につきましても市の方針を、地域審議会の後でございますが、会議を開催をいたしまして説明をまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

これから実施設計に入る。地域審議会、それから能生体育館検討協議会への報告、これでまた皆さんと話し合われて、どういうふうな結論を得るかわかりませんが、いずれにしても能生体育館、糸魚川市において全国大会が開催されるようなスポーツ施設が少ないわけにありますから、ぜひこれから能生体育館を建築するに当たっては、全国大会が可能な体育館の建設を望みます。

それでは次、総合体育館。現在の体育館の状態は、床が大分傷んできております。もちろんラインの張りかえが必要であり、電光タイム計が作動しない、天井が穴だらけ、暖房設備が使用できず、利用する人は暖房器を持ち込んでいたり、あらゆる箇所の不備が出ております。このような不備だらけの体育館で、糸魚川市以外の方が大会に参加した場合、恥ずかしい思いをします。能生体育館のように建てかえの予定がないのなら、ぜひ青海生涯学習センターのように大々的なりニューアルというものも考えなければいけないと思うわけですが、これについての考え方、方針、方向性を伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

総合体育館は昭和57年に建築されまして、現在ちょうど30年たっております。鉄骨鉄筋コン

クリート造りということで、耐用年数から見ますともう少しあるんですけども、かなり老朽化が進んでおります。この間の中で先ほどお話がありましたが、床面がくすんできてラインが見えづらいつか、あるいはサッシとかカーテンのふぐあいもございませう。こちらにつきましては、大規模なリニューアルというわけにはいきませんが、必要なところについて、来年度以降で修繕をしまいたいという予定でございませう。

以上でございませう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

ぜひ早急に修繕のほうを、実施をお願いいたしたいと思ひませう。

それからスポーツ大会の開催と誘致の取り組みにつきましては、前に早稲田大学のラグビー部が陸上競技場で合宿、また、ことしと昨年、東京農大野球部が関本四十四さんのおかげで美山球場で合宿、そのおかげで多くの人が見学にきたり、競技レベルの向上が図られるわけです。もちろんスポーツ大会開催により、糸魚川市以外の人を訪れることにより、経済効果や競技スポーツのレベルアップができると。体育協会にただお任せでなく、市としても全国大会の誘致、また宣伝等も行すべきでないかと思ひませうわけでありませうが、この市としての誘致、取り組みについての考えを伺ひたいと思ひませう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

全国大会等の誘致、あるいは大学等の合宿の効果につきましては、今ほど齊藤議員のご指摘のとおりでございませう。市としませうても、市民のための体育施設ということで整備をしまひませうますが、空いてるとき、また、施設の有効活用という点から、こういう市外の方々からおいでいただいて利用いただくということで、そういう場合については、市もできる支援をしまひたいと思ひませう。

また、市だけではできないものでございませうるので各種の協議団体はもとより、宿泊をいただく旅館、ホテル等の、そちらのご協力もいただきながら誘致に取り組んでしまひたいと思ひませう。

以上でございませう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

それでは、続ひませうして省エネについて移ひませう。

LED化の状況と今後ということで、今ほど3カ所、公民館9カ所を今行っているということなれど、これからの既設のLEDの取りかえの計画というものはどうでしょうか。これから計画

というものを、ちょっと教えていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

これからのLED化の計画ということですが、基本的には各課所管の施設について、各課でLED化を図っていくという形で進めさせていただいておりますが、我が総務課所管の関係では、この庁舎についてのLED化を今年度実施をさせていただいたということになります。

このうち庁舎関係で、さらにどうするかというようなことですが、今、取りかえたのは40ワット直管型の蛍光灯から、LEDの直管のものにかえたという段階ですが、それ以外にも確かにLED化できるものもあるんですが、使用時間数とかの費用対効果で、今後の検討とさせていただきたいものもあるということになります。

各課においては街灯のLED化とか検討されておりますので、また、そちらのほうからの答弁もあるというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

おはようございます。

お答えいたします。

学校関係につきまして、ご説明いたします。

現在、学校では大規模改修中の磯部小学校、糸魚川小学校、糸魚川東中学校につきまして、おおむね全照明器具の11%ぐらいをLED化で今進めているところでございます。

今後、既存の学校につきましては、そのような大規模な改修等の際に設置していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

建設課長（串橋秀樹君）

建設課の街路灯についてであります。街路灯は市全体で大体今6,200灯ぐらいあります。その中で平成22年6月ごろから、LEDの街路灯が設置され始めてきました。現在では118灯LED化されておりまして、その118灯の中に含めますけども、今年度72灯の申請がありましたけども、68灯がLEDであったということになります。将来、市内全ての街路灯をLED化をすることを考えていかなければならないわけですけども、まだ使用できる街路灯というものもあります。全てを短期間をかえていくということは、仮に市から補助があったとしても、多くの街路灯を所有する各行政区の自己負担が非常に大きくなりますし、また、逆に市が肩がわりして街路灯を設置しますと数が非常に多いわけですから、何億円もかかるということになっております。現状

においてはLEDを設置したほうが有利でありますけども、製品も日々進歩しております、復旧に伴い価格も下がるという期待もできますので、今後、自治体の動向や導入した自治体の実績を見て、判断していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

生涯学習施設についてお答えいたします。

地区公民館につきましては、26年度、27年度までに改修、あるいは改築を行っております。大規模な改修等も含めてLEDを、必要なところに入れてまいりたいと思っております。また、先ほどの能生体育館につきましても改築の際に、効果のあるところにLED照明を入れていきたいという予定でございます。

以上でございます。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午前10時43分 休憩

午前10時43分 開議

+

+

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

今ほど各担当から説明を受けましたが、私はここが言いたいわけなんです。建設課長が申されまして、今の既存のやつをLEDにかえるというのは大変なお金がかかる、一度にできるわけではない。今、各担当でいろんな考えのもとでやっている。

私はそんなことではいけない。生涯学習課長が言いましたけども、必要な箇所はやっていく、そんなことではだめだと思います。LEDへの取りかえは、やはり庁内全部で計画を立てるべきだ。今年度は、どことどの何をかえていくんだ。そういう計画的に、もう10年ぐらいでもいいですから、計画を立てて取りかえをしていく。それも各担当課が全部持ち寄った中で予算の関係やなんかも、やっぱりそれによって計画どおりにやっていく、これが必要なわけであり、今、各庁内がばらばらのことでやっているようでは、LEDの推進化はできないわけであります。ぜひLEDの取りかえにつきましては、計画をしっかりと立てて、計画書のもとで随時取りかえを行っていただきたい。市長、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに計画的に進めていくことが大切かと思うわけでありまして、しかし、かなり数が多いございまして、ある程度時間がくると切れたり、耐久が過ぎてくる部分がございますので、そういったところもあわせながら、やはり1つのところだけで、今お答えさせていただいたように数多くあるわけでございますので、なるべく計画的にもっていきたいわけでありまして、やはりそういった更新したところも、すぐまたLEDやるという非常に効率の悪いこともやってはいけないと思っておるわけでございますので、その辺もあわせながら計画的に、全市を挙げてやれるかどうかというのも、検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

それから既存の取りかえではなく、これから新しく建設をすることについても、新しいもののうちの11%はLED化にしましょう。でも、この建物は何%にしましょうということで、考え方がはっきりまだ方針、方向性が定まってない。やはりLED化については、今後、新しく建築する建物については、糸魚川市としてはLED化はどういうふうな考えのもとでいくのか、これをはっきりしていかなければいけないと思ってるんです。本来だったら、全部LED化にすべきだと思うわけですが、財政的な面もあり予算の面もあることから、そこら辺ははっきり方針を定めていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

全くそのとおりだと思ってるわけございまして、パーセントでお示しをすればいいのか、また、どういう形であればいいかというのは検討させていただきますし、当然、我々といましては、改築、改修にはLED化をしていくという考え方でおりますので、また皆様方に、どのように報告をできるかを検討をさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

電気自動車に移りますが、地球温暖化防止や都市環境の改善、石油への依存低減など問題解決を図るため、環境性にすぐれたEV車、すなわち電気自動車の普及啓発に取り組んでいる自治体が全国的に増加しております。糸魚川市の場合、今1台購入されておりますが、市長の答弁では、今後、

電気自動車については検討していくという答弁でありましたが、私としては今回の一般質問、もう少し具体的に、検討ということではなく、もっと違う考え方、答弁。検討ではなく、具体的に少し答弁を求めたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ちょっと言葉足らずで申しわけございませんでした。必ずしも電気ということではなくて、環境にいい車を、より選んでいかなくちゃいけないんだろうと思っておるわけでありまして、今、モデル的に、1台入れさせていただきました。

しかし非常に我々のこの地形の中では、また気候の中では、なかなか効率よく使えるというのは、ちょっとまだまだ課題がございます。そういったことを考えたときに、我々本市にとっては何がいいのかという部分を捉えながら、車両の導入には、そういったところを考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

糸魚川市には、電気自動車でなくハイブリッド車というのは何台今あるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

現在のところ、市の庁用車では3台あるということでありまして。

失礼しました。もう2台あります、5台であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

今ほど市長のほうからも環境にやさしいということで、ハイブリッド車5台、電気自動車1台ということなんですが、私の考えとしては電気自動車のインフラ拡充など環境整備に取り組んでいるアピール、今ほど1台と5台。ただし住民がまだ把握、そこら辺が電気自動車も買っているんだという、糸魚川市が利用してるんだということもまだわからない。糸魚川市へのこの電気自動車のアピールを、どのように行うかについて伺いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

電気自動車につきましては市で1台入れて、そこら辺を運行しながらしてありますが、庁用車としてのいろんな課題が出ております。それからPRはどうかということですが、やっぱり車にいろんな宣伝マークを入れて、市民にもわかるような形での自動車ということで、新たな電気自動車であるということのPRをしてきたわけですが、今後はやっぱりそこら辺をもう少し実態の中で、運用したらどういう効果があったかということもまたまとめて、何らかの機会に市民にPRを努めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

糸魚川市は1台、電気自動車を持ってる。糸魚川市内、民間で電気自動車というものの台数、それわかる範囲で結構なんですけど、民間で糸魚川市内での電気自動車の保有台数、どれくらいかわかったら教えていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

民間では今現在把握しているのは、5台保有しておるというふうに把握しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

ちょっと電気自動車で調べたところ、藤沢市や倉敷市などは電気自動車導入助成制度を行っている。電気自動車普及の取り組みを行っております。それほど環境にやさしい電気自動車の普及ということで、市が本当に表立って一生懸命取り組んでおられるわけでありますが、糸魚川市としては検討が必要だと思っておりますが、これについてはいかがですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

市全体での取り組みということは、電気自動車は環境にやさしいわけですので、やはり国を挙げてそこら辺を売り込んでおるところでありますけど、糸魚川市の地形、あるいは気候から見ますと、なかなかそれが運行の量では、なかなか満足いくような状況でないのが、今の市に庁用車を入れた中では実態としてあるわけですので、やはり当市とすれば、どちらかというと環境に配慮したハイブリッド車等、そういうところに重点を置いた自動車の導入というのを進めるのが、今の状況の中ではベターかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

電気自動車用の充電設備について、今現在の状況、設置、それから今後の糸魚川市内における充電器の設置を、どう考えているのかお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

青海のピアパークに1台設置をしました。そのときはやっぱり新潟県内、あるいはこの地域の中で1カ所もないということで、やっぱり重点的に入れようということで青海に入れたわけでありまして、その後の計画では能生のマリンドリーム、それから市の町内の中で1カ所、3カ所ぐらいは設置をしたいということで計画の中で挙げておりますが、あとはその設置場所等の環境とあわせながら取り組んでまいりたいということで、今の中では検討をしとるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

民間でも電気自動車5台、その充電器は、ちょっと勉強不足で申しわけないんですが、それは個人で充電しとるんでしょうか、そこら辺をちょっと教えていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

糸魚川市で設置するのは急速充電器ということで、普通の一般家庭だと200ボルトですと大体充電するのに8時間ぐらいかかるということですが、急速充電器だと30分程度でなるということで、市としては急速充電器を普及しております。

市内の民間業者では、普通充電ということで設置しとる業者もございます。これについては有料、それから無料等でやってるところもございますが、そんなことで一般家庭については200ボルトで充電してると8時間ぐらいかかるということで、そこで充電されているものだというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

ぜひ電気自動車、市としても1台とは言わず、今後、大いに購入を図り、環境にやさしい糸魚川市としては、環境に取り組んでいるんだということを訴えていっていただきたいと思います。

それでは続きまして、いじめについて伺います。

昨年の平成23年10月11日に、大津市の中学校で当時2年生の男子学生が、いじめにより自宅マンションから飛び下り自殺の事件は全国に波紋を呼びました。政府はこのいじめ自殺事件を受け、いじめ問題への対策を強化する総合的な取り組み方針を発表いたしましたが、大津市の事件以降、いじめ問題に対する糸魚川市の取り組みについてを伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

糸魚川市では既にいじめ問題については、きめ細かい取り組みをしまいいております。特に学校、家庭、地域が総ぐるみで、いじめを見逃さない、いじめ見逃しゼロスクール運動に取り組んでまいっております。これは特に2学期、4つの中学校区を中心に展開をしまいいておるところでございますが、中学生が小学生を同席させながら、劇を通していじめについてみんなで考える、そしていじめを見逃さない、いじめを生まない、そういう心を耕す授業を進めてきておるところでございます。

また、大津の件を受けまして、そういったところをさらに重視するとともに、日常の体験学習と道徳授業を関連づけながら、心を耕す道徳授業等に、または道徳教育等に取り組んでまいっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

既に、いじめについては取り組んでいる。糸魚川市としては、やることはやってるんだ。でも、いじめは10月末で、10件もあるわけですよ。

それから全国でも糸魚川市議会でも、いじめ問題については力を入れては積極的にやっとなるわけなんですよ。それにもかかわらず昨年の大津市のいじめ問題で、政府としてはもっと力を入れてやりなさい、そういう指示を出してるわけです。体験学習、私たちはどうもまだぴんとこない。政府の方針を受けて、市としてはどういうところに、もっともっと今まで以上の取り組みというのは、どういうことをやったのか、これを伺っとなるわけです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

10件という件数があるわけですが、今回の大津の件を受けまして、国、県からの指示もあったわけですがけれども、そういったことを受けながらより丁寧に、きめ細かく子どもたちの生活を見な

がら、いじめという概念を通して子どもたちの生活を掘り起こしていくということで、件数は多くなっているものというふうに思いますし、いじめはどの学校でも、誰にでも起こり得るものという捉え方をしていますので、件数がふえるということは、それだけ丁寧に見とりながら、1つ1つの事柄について丁寧に対応をして、子どもたちの心を耕しながら成長させていくというふうに捉えています。数字が小さくなることも大事ではありますが、1つ1つを確実に見取っていくということの大切さも、これから尊重していく必要があるというふうに考えておるわけであります。

なお、取り組みということでございますが、現在、学校支援地域本部事業という事業を推進しながら、学校・家庭・地域の連携を重視していくという取り組みもしております。あわせて、あいさつ運動にも取り組んでまいっておるわけですが、学校・家庭・地域それぞれの中で、それぞれの心を耕しながら、ネットワークをつくって心を豊かにしながら、いじめのない学校、地域というものがあかなと、そんなふうに考えております。時間はかかるかもしれませんが、着実に前に進めていきたいというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

私はこの10件という数値については、こんなもんだということで納得しとるわけじゃないです。実際には数にあらわれないいじめが多数行われているのではないかと、こう判断しておりますが、もう一度。何回もこれ、今までも一般質問や何かでも聞いとると思うんですが、再度いじめの定義、これについて教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長、答弁はもう少し簡潔にお願いします。

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

現在のいじめの定義でございます。

いじめとは、該当児童生徒が一定の人間関係のあるものから、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているものとするというふうになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

よく昔の人、年配者からは聞くんですが、いじめというのは昔からあったんだと、そのことを乗り越えて強くなっていくんだと。また、いじめについては地区の仲間や遊び仲間とグループが助け合ってやってきたと、こういう話を聞いております。どうも昔のいじめと現在のいじめの形態が違ってきてるのではないかと。自殺者が出るほどの残忍性やしつこいほどのいじめの継続、そしてゲームや遊び感覚のいじめではないかと思われませんが、現在のいじめについては私の今の、昔と今の

意見についての違いについては、どう考えているかお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

確かに今の子どもたちは、ゲームでの遊びの時間が長いということがございます。そのゲームの中では、生き死にかかわるようなことを平気で使うというようなこともあろうかと思えます。そういった影響もないとは言えないと思いますが、生活環境、社会環境、そういったものの変化によって、子どもたちのものの見方や考え方も変わってきているものと、そんなふうに使っています。

なお、昔と今は違うという面もあろうかとは思いますが、しかし、人の心のありようは変わらない部分もあって、そういった心のお互いの思いのずれで摩擦が生じて、いじめになるということがあろうかと、そんなふうに使っています。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

教師のそのいじめに対する研修なんですが、現在のいじめは昔のいじめと違い、ネットいじめや中傷メール等、教師が発見しづらいものがあり、ベテランの教師はついていけないのではないかと。ベテランの教師というものは指導する立場ではありますが、どうも今のいじめの形態とちょっと違うということで大変戸惑うのではないかと。そういうことからベテランの教師も若い教師も含めた、いじめに対する研修というものについてはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

研修につきましては年次計画的な中で、全教師を対象にしながら実施をしております。

なお、今ほどのネットとかメール等でのいじめということでございますが、これは学校がチームを組んで対応しておりますので、そういった情報に堪能な教師を中心にしながら早期発見、早期対応に努めてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

いじめについては最後になりますが、現在のいじめというのは犯罪なんだと、これをぜひ子ども

たちに訴えて、ぜひいじめゼロを目指していただきたいと思います。

それから児童虐待に移りますが、糸魚川市に55件も児童虐待がある、これは大変驚きであります。そういうことから、まず、また先ほどと同じように児童虐待の定義について伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

定義でございますが、身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待というふうなことでございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

それから虐待するほうというのは、この糸魚川市の場合に虐待者というのは誰なのか、一番多い虐待者、それから虐待される児童、小さな赤ちゃんから本当に高校生までいろいろあると思うんですが、その虐待を受ける人の年齢層、この2点について伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

虐待をする側でございますが、主に母親が多いということでありまして、受ける側でございますが、幼児、小学生が多くなっております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

いじめ同様に虐待も密室で行われるために発見が非常に難しいと思います。だからこそ、やはり私としては学校の教師が一番重要になってくる。教職員が発見を早くに異常を察知する、それが重要になってくるのではないかと。今ほど言いましたように、小学生が一番受けるのが多いということからして、教職員が児童虐待に対する認識を深め、児童や生徒たちの少しの変化を見逃さないとする姿勢が必要となります。

本当に教職員は、いじめもそうですが、虐待を察知する、こういう本当に大変な思いが必要だと思うんですが、児童虐待に対する研修、取り組み強化、これについてどのように行われているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

教師の研修でございますが、今年は11月に小柳信子氏をお招きして虐待、それから通報のありようについて研修を受けております。多くの子どもたちが学校におりますので、学校の教師が家庭との連携の中で未然に防いだり、発見をしていくということで努めております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

虐待をする側、これは母親が主たる虐待者のトップということではありますが、これについては、やはり親の不遇な生育史や経済不安や夫婦の不和、育児負担など、生活上のストレス、社会的な孤立などの要因が、そろって発生するのではないかと思うわけでありまして。そのためには個々の問題だけではなく、糸魚川市全体としても子育て施設の充実や、経済的に安心して生活できる環境づくりについての充実については、どのように考えているかお聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

子育て施設ということでございますが、現在、市内に3つの支援センターを設置しております。

また、環境ということでございますが、子どもが生まれる前、または生まれてから保健師が1人1人の保護者、母親にかかわりながら、いろいろな子育ての指導を行ったり、また悩みを聞いたりという場を健診等で設けております。

また、幼稚園、保育園に行った場合には、幼稚園、保育園の保育士等が母親とかかわりながら、コミュニケーションをとって見とりをしながら未然防止に努めるというような環境。学校も先ほどと同様でございますが、そういった中で環境整備をしながら支えていくという対応でまいっております。なお、それをさらに広げながら、学校・家庭・園を含めて、みんなで心を耕しながらということも、先ほどのとおり行ってきております。

なお、子育て支援につきましては、今年度、多様な施策で対応してまいっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

ぜひいじめ同様、児童虐待ゼロを目指していただきたいと思います。

続きまして、糸魚川駅前アーケードに移りますが、平成26年度末の新幹線開通までにアーケードは完成するのか、これ心配でなりません、完成するのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

お答えいたします。

駅前におきましては、県が実施をしていただいております無電柱化事業とあわせまして、地元商店街がアーケードの再構築の事業に取り組んでいただいております。

無電柱化につきましては、本年度は東側のほうの埋設管の敷設が完了いたしますし、来年度におきましては、西側のほうが完了する予定となっております。その後26年度に、舗装を終わらせるという予定でございます。

アーケードにつきましては、今現在、詳細の設計というよりも基本的な設計に取り組んでいただいております。先般も11月21日、12月4日と駅前商店街の皆さんは、組合員の皆さんにその説明会を開いておられます。

説明会の内容につきましては、従来どおり支柱を2本立ててつくるアーケードの構築の方法、もう1点は、支柱を1本商店街側に立てて、アーケードの屋根の部分を半分ぐらいにするという方法、この2点を組合員の皆さんにお示しをしながら、組合の役員の皆さんといたしましては事業費等の関係から、支柱を1本にする方向で、今後取り組んでいきたいという説明を組合員の皆さんにされております。

あわせてお客さんがふえて売り上げが向上するという部分の活性化計画も引き続きこれからつくってきたいということで、イベントを利用しながら市民の皆さんのニーズを把握をしたり、今、対応しとるところでございます。

そのような状況で25年度には詳細な設計、それからお客さんがふえて、にぎわいが出て、売り上げが上がるという活性化計画の法認定も来年度に向けて、今取り組んでいただいております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

冬に向かってアーケードがないために、住民は大変不便な思いをしております。私としては、これは糸魚川駅前銀座商店街振興組合だけの問題ではない。新幹線が開通する糸魚川市活性化の推進となるものであり、これは商店街の人たちだけに任せるのではなく、今まで以上の大幅な財政的な支援を行い、翠の交流都市の実現を目指すべきでないかと思うわけですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

お答えいたします。

新幹線の開業を契機に当市への来訪者、また、市民の人の流れを駅北方面に向ける誘客対策を、ハードとソフトの両面から展開していく必要があると考えております。

商店街振興組合が取り組んでおられるアーケードの再構築への財政的な支援と並行いたしまして、修景や駅利用者の買い物、時間待ちのまち歩きなどに対する積極的な誘客の取り組みも検討する必要があると考えております。

また、駅前通りに限らず地区内の商店街全体を巻き込んだ検討の場を、商工会議所、商工会、また観光協会と相談しながら、同じテーブルに着きながら、県の振興局の方にもご協力をいただきながら、進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

最後に市長に伺いますが、来年4月には市長選が行われます。新聞報道ではいろいろ取り沙汰されていますが、糸魚川駅前通りアーケードなどの整備も含め、糸魚川市は多くの問題が残されているわけであり、引き続き問題解決に向け頑張っていただきたいわけですが、米田市長のお気持ちを伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、この駅前の再構築についてのご質問にあわせて、再度、出馬する意向はどうかということであろうかと思うわけですが、今ほどお示しいたしているように、この駅北の商店街の活性化、そしてアーケードの再構築、これは大きな課題でございますし、また、そのほかにも大きな課題が数多くあるわけであり、それにつきましては、私といたしましても積極的に考えなくちゃいけない大きな課題であると思っておるわけでございますし、それについて進めていけると、それに取り組んでいけという今ご提言をいただきました。

私といたしましては、非常にそのことを重く受けとめまして、これについてはそのように進めていくということですが、当然だと思っておるわけですが、しかし、ちょっとうがった考え方をさせていただければ、信頼をするからしっかりやれという意味合いにも取れるということと捉えまして、私といたしましても積極的に、この再選については捉えさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

これで私の質問を終わらせていただきます。

議長（古畑浩一君）

以上で、斉藤議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を11時35分といたします。

午前11時24分 休憩

午前11時35分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。〔14番 田原 実君登壇〕

14番（田原 実君）

糸魚川21クラブの田原 実です。

今回、私は地域医療体制について、市民生活の安心・安全について、文化振興について伺います。なお、質問が多岐にわたっておりますが、市長のお考えをできるだけ具体的にお答えくださいますようお願いし、質問に移ります。

1、糸魚川総合病院救急外来棟完成後の地域医療体制と行政対応について。

最近完成した糸魚川総合病院救急外来棟は、市民の安心・安全、救急医療対応に欠かせないものとして期待されています。

しかしながら、今後糸魚川市の地域医療体制の何がどう変わるのか、また変わらないのか、行政から市民への周知、広報が不足していると感じます。この機会を捉え、市民が希望を持てる市の医療体制の将来像を市長、行政がしっかりと市民に伝えるべきです。

具体的に以下の点について伺います。

- (1) 糸魚川総合病院救急外来棟の概要とはたらきについて。
- (2) 救急外来棟完成をきっかけとした医師・看護師確保について。
- (3) 先日程行われた医療フォーラムの概要と効果について。
- (4) 広域医療連携における糸魚川総合病院の活用について。
- (5) 現在計画中の能生国保診療所との連携、市内医療機関との連携について。
- (6) 糸魚川総合病院への市からの今後の支援について。

2、財源不足、健康被害への恐れなど市民の安心をおびやかす諸課題について。

合併後の市の財政状況、安全な環境づくり、介護への対応など行政から市民への説明が不足しているために将来が不安という市民の声が届いています。

また一方で、地域振興への取り組み、未来に希望の持てるまちづくりの具体的な将来像（ビジョン）が見えないために将来が不安という市民の声が届いています。

市民が希望を持って一生を暮らせるように、また安心して子育てできるように、具体的に以下の点について伺います。

- (1) ことあるごとに市は「金がないからできない」というが、財政健全化の状況について。
- (2) 放射性物質を含む汚泥を市内に持ち込むことへの対応について。
- (3) 福祉・介護施設での人材不足やサービス低下への対応について。
- (4) 中心市街地をゴーストタウン化させない対応について。
- (5) 建設業の衰退、農地の荒廃、集落コミュニティ機能の低下などについて。

3、糸魚川文化の活性化について。

まちに元気を、市民に幸せをもたらす地域文化の創造や文化活動の推進は行政の重要な課題です。風土と歴史に根ざした固有の地域文化を後世に伝える取り組みは貴重な糸魚川の文化活動ですが、一方では時代性やリアリティを感じる、みずみずしい文化活動をそれぞれの時代の若者たちが担ってきました。

このことについて市長・行政はどう捉えていますか。また、行政はどのように支援していきますか。

具体的に以下の点について伺います。

- (1) 食の文化について。
- (2) 音楽や演劇や舞踊・ダンスなどのステージやスタジオを使う活動について。
- (3) 絵画や彫刻や陶芸などの発表展示を伴う活動について。
- (4) 鉄道の文化、特に鉄道ファンやマニアへの対応について。
- (5) ヒスイの文化を情報発信することについて。
- (6) 町屋や商家の文化を情報発信することについて。
- (7) 知音都市交流など、関係都市との交流プロジェクトへの若者の登用について。
- (8) 市内文化施設や資料館を連携させて活かすプロジェクトへの若者の登用について。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、救急外来の処置室や救急ワークステーション、災害治療ホールなどを設置し、地域の救急と災害時の拠点病院としての機能の充実が図られております。

2点目につきましては、医療と就労の環境向上が、医師・看護師の確保につながるものと期待いたしております。

3点目につきましては、1次救命処置の講習と実技、総合診療医に関する症例検討の講演をいたしていただきました。応急処置と総合診療医の役割について、市民の皆様にご理解いただけたものと思っております。

4 点目につきましては、当市の中核病院として、広域連携の役割を担うことを期待いたしております。

5 点目につきましては、能生国保診療所や市内医療機関とは機能を分担しながら治療に当たる病診連携を行っております。また、1 次救急は、引き続き医療機関と連携を図ってまいります。

6 点目につきましては、地域医療の充実のための支援を今後も継続してまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、これまでも財政が厳しい中で各施策を展開し、市民要望に応えてまいりました。財政健全化判断の指標の 1 つであります実質公債費比率は 15.2% であり、早期健全化基準の 25% を下回っております。今後も厳しい状況は続きますが、事業の選択と集中によりまして、コスト・スピード・成果を重視した健全な行財政改革運営に努めてまいります。

2 点目につきましては、国の基準に従った安全な汚泥の受け入れであり、持ち込みに際しましては、排出自治体や企業と協定書等を結ぶ中で、測定データを公表し、市民の安全・安心の確保に努めてまいります。

3 点目につきましては、各事業所の人員基準は満たされております。

4 点目につきましては、新幹線開業による交流人口の拡大に呼応した、古いまち並みを生かしたまち歩きによる着地観光の計画づくりを商工団体、観光協会と連携をいたしまして推進してまいります。

5 点目につきましては、過疎化、高齢化の進行に伴い、役員の確保や集落行事の実施などにおいて課題があることから、集落の維持を基本に、結びつきや支え合いの促進をすべく支援をしてまいりたいと考えております。

3 番目の 1 点目につきましては、郷土料理教室や地域の食材を使う学校給食は、地域独自の食文化を見直すよい機会であり、今後も継続してまいります。

2 点目、3 点目につきましては、芸能祭や美術展覧会等では若い人の参加もふえてきておりまして、文化活動の財政的支援や公共施設の使用料の減免措置を実施いたしております。

4 点目につきましては、現在建築中の北陸新幹線駅舎の高架下に、鉄道とジオパークをテーマといたしました施設を計画いたしており、地域の鉄道ファンやマニアの掘り起こしとあわせ、糸魚川の鉄道文化を全国に発信してまいりたいと考えております。

5 点目につきましては、ヒスイは糸魚川世界ジオパークの大きな魅力の 1 つでありますので、フォッサマグナミュージアム等での展示や、講演会をはじめヒスイ鉱物展などを通じまして、若い世代にヒスイの魅力を伝えることも必要であると考えております。

6 点目につきましては、相馬御風宅のバタバタ茶の振る舞い会や企画展を通して、情報発信に努めております。また、町家を公開している団体等もありますことから、連携をしてまいりたいと考えております。

7 点目につきましては、今年の 8 月から関係都市でのブログを開催し、幅広い地域、世代に情報を発信いたしております。

今後も都市交流において、若者も参画しやすい事業展開を図ってまいりたいと考えております。

8 点目につきましては、市内の特徴ある文化施設や資料館は、それぞれが関連する施設でもありますので、相互に来館者が増加するよう若者の参画も検討してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答

弁もございますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

では、地域医療体制について改めて伺います。

まず、救急外来棟の働きについて、もう少し詳細に伺いたい。また、それによって糸魚川の地域医療体制の何がどう変わるのか、あるいは変わらないのか、いま一度整理して担当課よりご説明いただきたいと思います。お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

よろしく申し上げます。

救急外来棟は4階建てでございます。1階は救急外来と点滴などの処置室及び内科外来になっておりますし、2階は外来患者の化学療法室と、病理検査、生理検査などの検査が行えるスペースとなっております。3階は医師が執務できる医局や休憩室、当直室がございますし、4階には従来1階にあった健診ホールと、大規模災害や新型インフルエンザの蔓延など、緊急時に対応できる災害救助ホールが整備されております。

地域医療体制としては、救急医療に携わる勤務医の方、また市内開業医の方や看護師などの方々が、今まで以上に機能的に充実した設備で診察、治療に当たることができるようになりましたし、患者の皆様にとりましても環境改善が図られておりまして、救急医療面では前進したと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

救急外来棟建設とERの充実で、救急救命対応が進んだと考える市民がほとんどです。また、そうでなければなりません。しかし、医師・看護師が不足する状況で、その目的を達成できるのかという課題は残ったままなので、まず、その点について。

次に、救急患者の受け入れのスペースが充実しても、それでイコール緊急の手術等ができるということなのかという点について。また、救急車や救急救命士との連携や向上をどう図るのかという点について改めて伺います。

行政の立場では答えにくい点もあると思いますが、市民の理解を進めるためにご説明ください。お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

同じスペースで救急患者を4人まで受け入れが可能になりますので、分散した場所でこれまで治療することに比べまして、効率的な治療が可能になりますので、医師・看護師の不足を補う一助になると考えております。

緊急の手術ですが、その場合は滅菌の関係もございまして、外来棟ではなく3階の手術室になります。あと緊急時の医師・看護師の体制や患者の病状や容体、手術室の確保などが関係してくると思いますが、最大限の対応をしていただくことになります。

また、救急車や救急救命士との連携でございまして、救急外来棟に救急ワークステーションが設置されました。ここには現在試行ではございますが、消防の救急隊を配備し、救急車による病院からの出動をいたしております。救急車出動時、1人が病院に残りまして、無線で現場や患者の状態を通信できますのでスムーズに受け入れ、早期治療につながるものでありまして、このような連携によりまして、病院関係者や職員の資質向上も期待しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

ありがとうございました。

内科医療の充実を進めることも建設の目的です。どういった点で改善がなされましたか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

以前に内科医がふえたときに、旧内科外来の診察室を点滴室のところにふやしまして6室といたしております。そのため点滴室のベッドが従来より少なくなりまして、狭いスペースでもあり不便であったとのことをお聞きしております。

現在13人の内科の先生がいますが、救急外来棟1階に内科外来を移すことによりまして、通常は7診までの診察室が確保できましたし、点滴等のベッドは倍にふえております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

内科医療の充実が進むということで結構であります。ただ、今回の増設工事で病院内の動線が変わり、利用者に混乱はありませんでしたか。ぐあいが悪くて病院に行ったのに、わかりづらくて困ったという声がありました。そうなることは前もって予想できたでしょう。しかし、病院サイドは新しい体制づくりに、それこそ手いっぱいになっている。だから行政がそれをサポートして、患者、

市民が混乱しないようにすればよかったと思います。そのことを担当課は考慮、検討したのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

ご質問のとおり、特に内科へは遠回りで行くこととなりますので、この対応につきまして、内科が移動する前に糸魚川総合病院にお聞きしたところ、移動のお知らせの張り紙や誘導表示、また職員が誘導するとのことでしたので、市では特に対応いたしておりません。

実際現場では、配置図や誘導の矢印など多くの張り紙がございましたし、廊下に内科までの誘導の青色の線が引かれておりましたし、角、角にそういう職員の方が、ご案内をしておりました。

なお内科へは、来週の月曜日から最短のコースで行けるように改善されております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

がん化学治療対応を進めることも建設の目的であります。こういった点で改善がなされましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

がん治療に携われる外科は、外来の化学療法のためのベッドが少なく、内科外来の点滴室で行っておりまして、同時に化学療法をされる患者の数が制限をされているような状態でした。

今回、救急外来棟の2階に外来者の点滴スペースを多く確保されましたので、患者をお待たせするようなこともなくなり利便性が向上しておりますし、さらにベッドが椅子型に変わりましたので、本を読んだりテレビを見るなどリラックスして点滴できますので、快適性も向上しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

通院で、がんを治す、あるいは抑える治療が進むことは大変期待できるということです。では、その目的が十分に果たせるように、行政からできる支援というのはどのようなものがあるとお考えですか。

例えばバスやタクシーなど、交通手段をより便利にすれば、市民のがん治療へのサポートになると考えます。また、新しいがん治療の市民学習会の開催なども、行政からのサポートになると考えます。今後の取り組みとしてはいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

議員ご提案の交通手段へのサポートも、がん治療の支援の1つの方法だと思いますが、糸魚川総合病院が送迎バスを廃止する際に市と協議をいたしまして、病院利用者は路線バスを100円で利用できるようにした経緯がございますので、がん患者に限定しての交通支援は厳しいかと思っております。また、ご提案の学習会につきましては、病院と相談させていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

今提案しましたから、ここで答えるというのも何ですけど、こういったことも事前から考えられるわけです。例えば交通のアクセスをよりよくするというのを、今回、一緒に考えていただければなと思ったんですけど、その検討はなかったですか、担当課は。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり病院だけではなくて、市民の足をどのように確保するかという大きいところで捉えながら、より足を確保するための利便性のいいダイヤ編成をしながら今進めてるわけございまして、その部分だけ特化していくと、また以前のような非常に複雑な体系になるわけございまして、そういったことのないように、いろんな方々にやはり対応できるように、いかに効率よくやるかというところで計画していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

では、医師・看護師確保について改めて伺います。

これまでも市なりの医師・看護師確保の取り組みがあり、その効果が早くあらわれることを期待しております。

ただ、医師・看護師は慢性的に不足しているもので、今回、救急外来棟を建設し、環境整備を図ることによって、医師・看護師が来てくれる可能性が上がるということであり、救急外来の対応や糸魚川圏域の地域医療が存続できる可能性が上がるということなのだ、私なりの見解を市民に話しています。それを聞いて、中には医師・看護師もふえて、いつでも救急医療対応ができるということなんじゃないですかと。医師・看護師がふえず救急医療対応がこれまでと変わらなければ、建設

した意味があるかねと意見を述べる市民もいます。

5年前の旧姫川病院の突然の閉院と混乱を市民が経験しましたが、医師・看護師不足への理解は、まだ不十分なのかもしれません。また、地域完結で救急医療を確保したいという市長や糸魚川総合病院や医師会の努力で、ようやくここまできたことも、この機会にしっかりと市民に説明すべきだと思います。その点、市長のお考えも伺いたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

市民の皆様への周知につきましては、いろんな機会を捉えておりますが、1つの例としては地域医療フォーラムもございますし、そのような中で365日24時間体制につきましても、糸病を中心に地元医師会のご協力をいただく中で運営できておりますし、そのようなこともアピールさせていただいております。

また、救急外来棟によりまして医師・看護師を機能的、効率的に活用できることになりましたし、これまで取り組んできました医師養成資金貸付金、また医療技術者修学資金貸付金、そしてことしから看護師就職助成金などは効果が出てきているというふうに感じております。

現在、医師養成関係では、研修医として2人お勤めいただいておりますし、看護師もことし既に8名採用されておまして、7人が市出身で、6人の方が、この医療技術者就学金の対象者でございました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

では、先日の医療フォーラムについて改めて伺います。

その内容を全て伺うことは無理ですが、医師・看護師の確保につながる取り組みなど、今後の参考となることがあれば集約し、紹介していただきたいのですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

11月17日のフォーラムに、水戸協同病院の徳田安春先生から「総合診療医とその役割」ということでご講演をいただいております。

茨城県でも水戸市は県庁所在地でありながら医師が少ない地域に入ることから、病院で専門医を養成するのではなくて、広くあらゆる症例に通じる総合診療医を育成することにより、医師の不足分を総合診療医がカバーする体制をつくり上げ、さらに患者それぞれを総合診療医が専門医と連携する中で、治療を進めていくスタイルを確立してきたとのごことでございました。総合診療医をヤンキースのイチローに例えまして、守備範囲の広い医師ということで説明をしておりました。

現在、同じように医師不足であります糸魚川地域でも共通の悩みを抱えていることから、糸魚川総合病院では総合診療医の育成に力を注いでいるところがございます。その実現には、全国から臨床研修医が集まる病院としていくことが効果的でありまして、そのためには医療に従事しようとするものが、アクティブに研修できる病院であること。また、ERがすばらしい病院であること。新幹線の開業により、首都圏等からのアクセスがよい病院であること。市民や地域、さらには患者が、臨床研修医を育てる環境が育っている地域にある病院であることなど、いろいろと条件が整っていくことが重要だとお話がありました。臨床研修医を市民の財産として市民が成長を見守り、病院と一緒に育てていくような環境を醸成しなければいけないというふうに感じました。

以上でございます。

議長（古畑浩一君）

田原議員の質問の途中でありますが、昼食時限のため暫時休憩といたします。

再開を13時といたします。

午後0時00分 休憩

午後1時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

午前中に引き続き一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

では、続きをお願いします。

医療フォーラムの効果について、いま一度、担当課から伺ったわけです。その医療フォーラムの中で、講師の徳田先生のお話にありました水戸での総合診療医養成プログラムですか、研修医を地域で育てると。この取り組みに対して我が糸魚川の総合病院のほうでは、何か提案といたしますか、話はありましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

既に糸病では、いろんな研修医の養成プログラムがございますが、今後は総合診療医ということで、プログラムを改善させていく形だというふうにお聞きしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番(田原 実君)

若い研修医を糸魚川市に集めて総合診療医を糸魚川総合病院で育てる、その樋口病院長の考え方、これはやれたらすごいですよね。では、総合診療医を糸魚川総合病院で育てることの意義については、担当課はどのように考えましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長(岩崎良之君)

例えば目まいのような症状でも、いろんな原因があるわけですが、総合診療医が病気を判定いたしまして、専門医と治療することによりまして、言い方は悪いですけど、診療科のたらい回しのようなことはなくなりますし、まず、総合診療医に診てもらおうという、市民の皆様にはわかりやすく、しかも早期治療につながるものと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田原議員。

14番(田原 実君)

早期発見・早期治療が市民にとって一番のメリットだと、こういうことできっと喜ばれると思うんですよね。糸魚川総合病院は総合病院というくらいですから、たくさんの診療科が設置してある。ただ、やはり医師不足ということは、やむを得ない状態である。糸魚川総合病院くらいの規模で、全ての診療科目を満足に行くと。つまり専門医を全てそろえて、いつでも対応することには限界があると、難しいと。だから今回のような別の切り口から、市民への医療サービスの満足度を上げるための工夫というものは必要となってくるし、総合診療医の育成はそういうことで進んでいくということに対しては、私は1つの方向性が示されたなど、このように考えております。行政からの支援というものも考えていただきたい、お願いをいたしまして別の質問に移ります。

では、広域医療連携における糸魚川総合病院の活用について、いま一度伺いますけども、広域医療連携が、ますます必要なことはみんなわかっていると。そこで行政なりに、今の広域医療連携における課題というものは抽出されていますか。また今後行政は、それに対してどのような対応をとっていくということは考えてありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長(岩崎良之君)

広域医療連携につきましては、やはり今後は病院と病院、病院と診療所をネットワークなどで結ぶことが必要というふうに考えておりますが、今現在は、やはりいろんな各地の動向を研究しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

行政からは中核となります糸魚川総合病院の理念、戦略、そういったものがあるとすれば、そういったものを中心に広域医療連携を進めるということ。また、市民からの理解、協力を得ること、これをどうするか。こういったことについての現状分析や検証を怠らず、それと想像力を働かせて考えてほしいと。一緒に糸魚川の医療体制をつくるんだと、そういうふうモチベーションを上げてほしい。私が糸魚川市の医療行政に求めているのは、まさにこのことなんです。その点はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

ご指摘のとおり、現状分析というのは大変重要だと思っていますし、糸魚川総合病院、医師会と連携しながら医療フォーラムや、いろいろな取り組みをしておりますが、ご提案のとおり、さらに市民の皆さんを巻き込むような形のものを、今後また検討してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

課長はいいご答弁をいただいておりますので、はっきりゆっくりとお話いただけますか、お願いします。

では、ここでこれまでの質問等につきまして、私なりに少し整理をしてみたいと思いますが、身近な救急対応ができる病院が突然なくなってしまうと、市民生活に大きな支障となるので、頑張っ地域完結型の救急医療体制をつくってきたと。しかしながら、医師・看護師が不足する状況は厳しい。糸魚川市の取り組みで改善は進んでいますが、やはり厳しい。それで、その対応策を糸魚川総合病院が中心となり、さまざま講じている。当然、糸魚川市も支援をしている。

糸魚川総合病院のこれからのチャレンジの1つには、総合診療医の育成、研修医の育成があり、市もそれに積極的にかかわっていくつもりである。今後の医療行政において新しい医療の形、支援の形を勉強しサポートに努めると、市長、こういうことでよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

何か救急対応が今まで何かなかったような言い方をされているんでありますが、そうではなくて、

我々は今まであるやつに対して充実をさせていただいておりますし、また、医師・看護師不足の中で、今その対応の中で効率のいい機能のアップを願って進めてきておるわけでございます、何か何もなかったようなところから、今、救急外来棟ができたことによって、初めてスタートしたような言い方をされるのは、筋がちょっと違っているのかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

決してそういうことではありませんよね。だって議会の中で、ずっとやってきたじゃないですか。そのことは私もわかっているつもりです。頻繁に質問もしておりました。

では、これからの地域医療体制づくりについて提言を交えて伺いますが、行政は糸魚川の医療機関で学び、働き、生活することの魅力、情報媒体を使って医療従事者や研修生、学生に広く宣伝するなど糸魚川に注目し、来てもらうためのサポートもする。北陸新幹線の開業もそのチャンスと捉え、首都圏から北陸3県までのエリアから医療の人材を糸魚川に集めるサポートをする。それには例えば研修医を集めて育成するには、病院に魅力があるだけでなく、地域、まちに魅力があることも重要であることから、大都市に集中しがちな医療の人材を、糸魚川のような地方の個性で引き寄せる努力をしていく。市長、この点はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

看護師不足、医師不足については、地域の環境を変えるというところではないだろうと思っております。今、非常に大きな1つの体制が変化する中において起きておる事柄については、非常に今、大学病院もそうでしょうし地域の中核病院も、みんなそういう状況の中に陥ってるわけでありまして、やはり今、我々糸魚川市が目指すものは、糸魚川総合病院を中心にして情報発信をすることが一番大事なわけでありまして。行政が情報発信しただけでは、そういったところは理解を得られない部分であります。そんなことで我々は今、糸魚川総合病院さんと、また医師会の皆様方との連携を、この糸魚川の特徴として、糸魚川総合病院から情報発信することが、一番関係する医師・看護師がやはり注目をさせていただくことだろうということで、その方向で進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

今そうだということですよ。私はこれからということでお話したんですけど、医療フォーラムの中で徳田先生に対して、私、質問しました。これから糸魚川のようなところで研修生を集めるための工夫、地域の魅力づくりはどうですかというような話が、たしかあったと思います。市長は私の前で聞いてましたよね。そしたら徳田先生は、やはり地域の魅力ということと、それから医療機

関のコラボレーションが必要、そして情報発信が非常に大事なんだと、そんな話をされたと思うんですけど、違いましたかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

一般論としてはそうでございますが、その魅力だったら、もう大勢の人が来ております。糸魚川は大学病院でのお話の中においては、糸魚川は自然があっていいね、魚が釣れていいし山も歩けていいと。もうそれだけで魅力は十分あるわけでありますが、それじゃあ糸魚川の医師がふえるかということ、そんな問題ではないと思っております。

そういう中で、我々は今進めておるわけでございまして、まずはやはり一番の原点を大切に、原点をやっぱりしっかりすることが大事だと思っておりますし、やはり医療機関の最前線をいくようなところに取り組みなければいけないだろうと思っております。自然の環境とかそういうものは、交通機関のアクセスの発達によりまして、いろいろカバーできると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

1つの集約ができてよかったと思います。

そこで資料を1つご紹介したいと思います。これは金沢の病院で見かけて取り寄せた医療情報誌です。NPO法人プロジェクト「医心」なんですけど、このNPOが年6回発行するこの医療情報誌は、石川、富山、福井県下の勤務医、開業医の98%に無料で配布され、北陸地域の病院、医師、医院の医療活動の現場や先端医療技術を紹介し、また、医療の諸問題について多くのドクターの生の声を通して、ドクターほか医療従事者に向けて発信をしています。同様にナース向けの情報誌もあります。「ナースステーション」というこの雑誌ですね、同じところで発行しておりますけども、ぜひ一度ごらんいただきたいと思います。

これが医療従事者にとっては、働いてみたい医療機関を探すガイドブックとなり、患者や市民にとっては、最先端の医療情報と医療機関を知るガイドブックとなるわけです。つまり1つの情報誌が、2つの知りたいというニーズに応える役割を担い、北陸3県の医療情報エリアをつくって地域医療をサポートします。

ここで私が申し上げたいことは、行政であれ市民であれ、医師・看護師でないものが地域医療を守ろうとしたとき、まず、地域医療についての情報を知り、学び、考える必要があります、糸魚川市や新潟県内に限らず、隣の富山県、石川県の地域医療の状況についても、今ほど紹介した情報誌などから知り、実際に尋ね、調査することも必要だろうと。そのように行政、市民と一緒に地域の医療を考え、行動していくことが、やがては糸魚川に人材を集め、医療確保につながるのではないかと、いうことでありますが、行政の考えも伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり医師不足に陥ったその状況を打破しなくちゃいけないということで、いろんな今手だてをやってきてる中において、ようやくその効果が今、出始めてるわけでありまして。いましばらく、やはりそれを続けなくてはいけないと思っておりますし、我々もやはり情報収集におきましては、大学病院などにお伺いさせていただいたり、また厚生連、または新潟大学、富山大学の直接その現場の先生方にお話を聞く中で、我々是对応させていただいてるわけでありまして。やはり一番効果のあるのは、やはりそういうところだろうということで、我々はその中で、いかに情報を出していくかということも捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

全くそのとおりですね。

ただ、これまでと、そして今とやっていることは、この先も続けながら、さらにどういった取り組みをしていくかということが、やはり行政にも与えられた課題だということでお話をしております。

私からの提案としましては市内の医療機関の姿が見える形に、樋口病院長を中心に進める糸魚川総合病院のこれからの取り組みが見える形に、そして鬼頭先生がリードする能生国保診療所の取り組みが見える形に、そして糸魚川市内の医療機関の取り組みを詳細に紹介するために、こういった医療情報の冊子をつくり、医療関係者や市民に配布することを提案したいと思います。糸魚川医療の今とこれからの取り組みを、しっかりと情報化して見えるようにすることが大切だと思います。

これが医療従事者にとっては、働いてみたい医療機関を探すガイドブックとなり、患者や市民にとっては、地域の医療情報を知るガイドブックとなる。これを見た人が、この中に私の仕事や、あしたの私を見つけて糸魚川に来ていただけるように、糸魚川の医療に参加してもらおうきっかけとなるように、また、多くの市民から地域医療への安心と期待を見出していただけるように、つくって活用すべきだと思います。仮に1万部作成し、1冊に500円かかれば全部で500万円ですが、あしたの医療確保につながると思えば、有効な投資となるとは考えられませんか。今後の事業で取り込まれるように期待をしますが、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

いろんなやはり情報発信があるんだろうと思うわけでありまして、今言われたような形は、ちょっと私はできないのかと思うわけですが、しかし市内の医療体系、それをきちっとやはり位置づけし、そして、またそれを知っていただくことも非常に大きい事柄だろうと思うわけござ

いまして、そういった点についてはこれから研究させていただいて、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

すぐに研究してください。

では、市民の将来不安への行政対応について、2回目の質問に移ります。

金がない金がないのは、市の事業費、借金、毎年決算認定の後で市民に公表され、詳細な説明がありながら、市民からそういった声が出るのはどうしてなのか。市の財政状況は、それほど悪いですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

系魚川市の現在の財政状況についてですけれども、決していいというふうには言えませんが、決して悪いという状況ではないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

いろんなことを市民は考えているんですね。合併特例債を当て込んでいろんな事業をやって借金がふえて、その返済がこれから大きいので、市民の望む事業への投資を控えざるを得ないのかと、得なくなっているのか、そういったことを皆さん考えている。これからの税収に比べて何が大きいのか、そういったことを聞いてほしいということでありました。

そこで1つ伺いますが、これからの税収に比べて職員人件費、固定費の負担が、ますます大きくなるから、それで市民の望む事業への投資を控えざるを得ないのかどうかと、こういった点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

職員の関係であります、行政改革の中で、これまで職員の減員化を図ってきております。細かい数字は持ち合わせておりませんが、平成17年から24年にかけて90人ほど削減をし、物件費等と合わせて4億円以上の削減ができているというふうに思っておりますので、今後も引き続き職員の適正化に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番(田原 実君)

私は議会の中にいまして、行政職員の皆さんが一生懸命仕事をしている姿を見て知っています。ただ市民の皆さんが、その仕事に対して理解や感謝が仮に少ないとすれば、それは市民というお客様に対しての、お客様本位の姿勢に欠けるところがあるということかもしれません。市民というお客様に対して行政として、まず伝えることをちゃんと伝えているか。市民への説明において、責任の所在を明らかにしているか。モチベーションを持って公務に当たり、みずからの責任において行動しているか。その姿が評価されて安心感につながるか、不安感につながるかという分かれ目ができているというふうに私は思います。

例として、最近の放射性物質を含む汚泥を処理することに市民に不安が広がっていることへの対応、市民が安心できるように市の責任で行いますと明確に伝えなければ、不安はどこまでも不安なんです。この対応についてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長(渡辺 勇君)

汚泥の処理につきましては、排出元、それから処理業者、それから糸魚川市の3者の協定を結ぶことによって、市の責任等の所在をはっきりいたしたいということでございます。

それから処理に当たりましては、放射線の空間線量等の測定など各種測定データを公表することで、安全・安心につなげていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田原議員。

14番(田原 実君)

これまでも各地で説明をして、それなりのやりとりがあって、市民の理解が進んだ点もあるかもしれませんが、ただ、今回のこの汚泥処理の問題、まず誰に安心してほしいかということを考えてみれば、やはり子どもを持つ母親なんじゃないですか。その人たちが安心すれば、持ち込みと処理に納得すれば、市民はきっと納得しますよ。それができてないんですよ、まだ。これからそれ、できますかね、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長(本間政一君)

課題であります汚泥処理につきましては地区での説明会、また11月ですか、市長が受け入れを表明してから、きのう、おとつい、その前の日と、3地区で説明会をやってきました。

その中でも、やはり放射能そのものに対する不安というのは広くあったわけですので、そういう中では、しっかり行政としての方針を出した以上は、説明をしなければならんというふうに思っています。ただ、基本的な考え方をやっぱり、放射能そのものについては新しいものでありますことから、

理解度はかなり温度差があるんだろうと思ってます。そこら辺も含めながらしっかり説明して、基本的なことから説明する中で理解を深めていきたいと。それから、やはり先ほど課長が言いましたように、情報をしっかり公表していくというのは、市民の中に伝わるんではないかと思っております。

それから田原議員が言われましたように、子どもさんをお持ちの方は、やっぱり一番不安だと思っております。そこら辺のことに重点を置いて、今後取り組んでいく必要があるというふうに、3日間の説明会の中では、そのような感じをとっておりますので、それらについては早急に何らかの形で、しっかり市の考え方を訴えてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

訴えれば伝わるだろうと、こういうことですが、やはりきめ細やかにやるには、これからどうなっていくのかということをおの機会に聞きたいですね。教育長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

子どもたちが実際に放射線について学ぶというのは、中学校へ行ってからの学習になります。ただ、今までのように放射能は安心・安全だよという学習だけではなくて、今、大震災の後、何をやっているかということをお皆さんからもう1回考えてもらえれば、教育委員会が取り組んでいる事柄、子どもたちに伝えたい事柄、それから保護者に伝えたい事柄というのは、わかっていただけるかなと思うんですね。各学校のグラウンドの放射能線量をはかったり、こういうことをしながら理解を深めてもらうように働きかけております。こういう1つ1つの取り組みが、非常に安心を与えていく活動だと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

それは誰しもがそう思いますよ。だから子どもを持つ母親の皆さんに、どういうふうに納得してもらおうような説明をしていくかということをお聞いているわけですね。それは教育委員会のほうは関係ないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

教育委員会のほうもあると思うわけでありますが、先ほど副市長がお答えさせていただいたように、やはり今ご指摘の点についても大切な事柄でございますので、これからしっかりそういった方向でさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

建設業の衰退や、それから農地の荒廃等々、いろんな課題をここに挙げてあります。これらの問題を一つ一つやっていきますと、きょうは時間が足りないので、ちょっと絞って話を進めますが、生活に身近なところでは福祉介護施設での不安、これは将来、福祉介護施設に入居できるかということではなく、働く人材が不足している中で、福祉、介護が実現していくのか。中でも、施設に看護師さんがいないことによる看護対応についての不満や不安が市民から聞かれます。このことを行政は調査し、検討し、問題の解消に向けて対応策を考えているのでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

介護保険施設につきましては、国が定める人員基準には、認知症対応型共同生活介護施設、認知症のグループホームでございますが、そこでは介護職員の規定はございませんが、それ以外の施設では配置基準が整っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

配置基準が整っているということだけでも、市民のほうからは不満や不安が出るということですよ。だから施設の事業者等と、どのくらい密度の濃い話し合いをしているか。行政のほうは調査をして、その検討をしているかと。どのくらいの割合で施設運営者と面談して、問題を共有するように努めていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

各施設とは随時というわけではございませんが、年に数回はお話をさせていただいております。また、議員が言われるような介護職が不足することによって不満を生じているという状況が、どん

なものかうちのほうではわかりませんが、例えば病気になった場合に病院のほうに行くという場合には、入所施設であれば施設のほうの責任で通院に付き添いをさせていただいております。また、ショートステイの場合でありましたら、家族のほうにご連絡を差し上げまして、通院のほうをしていただくようお願いをさせていただいております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

安心できる体制になっているということが確認できまして、私も一安心であります。

では、この2番目の質問なんですけども、最後のところで市長の政治姿勢について伺いたいと思います。

先日の新聞報道では米田市長が、3期目の続投に意欲満々と。であるならば、市民の不安を吹き飛ばし、あすに夢が持てるようにということで頑張るということを、いま一度、市長から力強く宣言していただきたいんですが、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私はやはり市民の幸せや、市民が前向きになっていただけるような方向に我々は今進めて、行政というのは、それが仕事だと思っております。それが職務だと思っておりますので、私もやはりそういった方向に導いていかなくていけない。やはり今こういう時代ですから非常に暗い話題、そしてまた大きな課題が多くあるわけではありますが、そうであっても我々は、やはり市民の幸せを求めていかなくてはいけないし、市民と一体となって明るい方向にいかなくちゃいけないわけですので、そういった手法をこれからも続けさせていただきたいと思っておりますし、特にみんなで今、新しい一つのチーム糸魚川という形を確立するよう、市民の皆様方と連携をとりながら今進めているのもご存じかと思いますが、そのような方向でこれからも取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

市長の思いはわかりました。ぜひまた頑張ってくださいと思います。

今お話にも出ましたが、この先の問題としましては、やはり行政全体のモチベーションということになりますか、決して行政の職員の皆さんにやる気がないと言っているのではありません。ただ、市長の理念なり、やる気というものを市役所職員全体で共有できているのか。また、職員1人1人が理解して、我がものとして働いているのかということでもあります。

市民の幸せをつくるのが、市役所という職場での自己実現であり、自分にとっての幸せだというふうに考えていただいているか。また、そのことをしっかり教育しているのか、そのことについても伺いたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしくそのとおりだと思っております。私は本当に職員全員に、今言ったような気持ちで接してはいるんですが、しかし時々いろいろまた皆様からご提言をいただく中においては、そうでないような映り方もしてるわけでございますので、そういうことのないように徹底していくのが我々の仕事だと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

すみません。大事な話を1つ落としていましたので、もう一度やらせていただきます。

中心市街地をゴースタウン化させない対応についてということであります。

例えば糸魚川駅北口のアーケード建設事業において、なぜ市が事業主体とならないのか、あるいはなれないのかということをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えさせていただきます。

我々は今いろんな事柄について対応させていただいてるわけでありまして。今ご指摘の点についても当然、我々の大きな課題であり、行政の職務もその中に加わるものだと思っておるわけでありまして。

しかし、ただ、施設なり整備を行政だけ行って、それで本来の目的が達成できるのかということがあるわけでありまして。そういったときに、やはり地元の関係者なり、そういった取り組んでおられる方々はどのように捉えているのか。ただ単に、施設だけつくってもらえればいいということではなかろうかと思うわけでありまして。やはりそこに情熱や愛情を注いで、いろんな活動なりをやっていただけるかということがないと、ただ行政だけで率先してやるという状況ではないだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

市長、決してそう言いたくて今の話だったと私は思いませんが、今のお話だと地域のモチベーションが低いというふうにもとれますよね。ただ、行政側のまちづくりへのモチベーションはどうなんだと。やはり私からすれば、それもまた低いのではないかと、どこか腰が引けているのではないかと、ということも感じます。住民が事業主体だということと言っても、それが進まない事情があるならば、それが公共のもので有意義なものならば、行政が知恵を出し、汗を出し、金を出せばいいんじゃないでしょうか。

逆に、そうしない場合に、住民や地域のまちづくりのモチベーションがさらに下がって、今後、何をやるにも事が悪いほうに悪いほうに進んで、店が閉まり、人通りが途絶え、イベントがなくなり、にぎわいがなくなれば、そこはやがてはゴーストタウンのようになりますよ。駅は立派、駅前やまち中はゴーストタウンで、糸魚川市のまちづくりがいいわけではないと思いますが、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、まちの中だけではございません。市内全域、非常に厳しい環境にあります。でも、みんな一生懸命頑張って、手を挙げてるところがあるわけがございますし、一番市内の中でも高齢化率の高いところであっても、みんな頑張るとるわけでありまして。そういった姿勢の中においては、行政はしっかり支えていかななくてはいけないと思っておりますし、一体となって連携をとらなくてはいけないと思っておるわけがございますので、そういった姿勢が見えれば我々はどんな支援ができるのか、そういった対応ができるのかということでも進めさせていただきたいと思っておりますし、全然我々がそういう中に入らないわけではございません。一緒になってその中に加わっていただきながら、そういった状況を一体となって、今、その中に加わっておるわけでありまして。そういう中で、我々は今進めてきておるわけがございますので、まとまったところについては我々、一生懸命行政も一体となって連携をさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

多分繰り返しになると思うのでやめますけども、やはり行政側のモチベーションが上がれば、相手のモチベーションもまた上がっていくということも、もう1回チャレンジすべきだと思いますね。相手次第で逃げてるといふふうに、言われぬようにしていただきたいと思っております。

質問の3、糸魚川の文化の活性化について2回の質問をしたのですが、時間の関係で本日は質問できないので次回に繰り越していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を1時45分といたします。

午後1時39分 休憩

午後1時45分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

伊井澤一郎議員の質問に際しまして、伊井澤一郎議員より両足に違和感があり、長時間起立しての発言が非常に難しいとの申し出がありました。議長といたしましては特別に初回の登壇する場所に椅子を置きまして、その椅子に座りながら伊井澤議員が第1回目の質問文を読み上げることにつきまして許可をいたしましたので、ご了解をいただきたいと思います。

それでは引き続き一般質問を行います。

次に、伊井澤一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。〔24番 伊井澤一郎君登壇〕

24番（伊井澤一郎君）

議長から椅子を用意していただきまして、まことに申しわけございません。お許し願いたいと思います。

それでは一般質問をさせていただきます。

糸魚川21クラブ、伊井澤一郎です。

事前に通告をいたしました発言通告書に基づき一般質問をいたします。よろしく願いいたします。

最初に、糸魚川市内の小中学校統合について。

当市におきましても少子化が続いています。特に、中山間地におきましても高齢化、過疎化がますます進み、歯どめのかからない状況であります。市内の小学校におきましても、山之坊、小滝、根知、今井、西海、中早川小、統合となっております。時代の流れとはいえ地域の学校が、文化が、長い歴史が消えていくことは、まことに残念でなりません。

私も平成16年、旧南西海小学校、北西海小学校が統合になり、大変むなししい思いであります。そこで各地に残されました学校跡地と校舎の利活用について、続けて質問をしてまいりました。具体的な計画がなされたか、以下について質問をいたします。

1、廃校の利活用について。

市内の小中学校の統合による校舎跡地について利活用ができない校舎は取り壊し、借地であれば返還して整理する考えはあるか伺いたい。

(1) 旧南西海小学校跡地は、平成22年にワークセンターにしうみに生まれ変わり利用している。残されたプールについての考えはどうか。

- (2) 旧北西海小学校跡地は、体育館は除雪機の車庫に使用されているが、それ以外の土地について、地権者から買い上げをされているか。地権者の土地面積の配分はされているか。
- (3) 今井小学校は25年度に統合すると聞いているが、学校の利用について地元の皆さんとお話が進んでいるか。市の考えは。
- (4) 市内全体で統合された校舎跡地の利用をインターネットで発信をしているが、利用の申し込みがないと聞いている。市の考えは。
- (5) 市内全体で、小学校校舎跡地の年間の管理費用はいくらか。

2、第1次産業の再生基本方針について。

市内の農業は、中山間地が多く、年々耕作放棄地の増加と山腹水路の保全管理が大変になっている状態である。

国の食と農林業の再生基本方針が示され、農業を取り巻く情勢は大きく変化をしている。農林水産業の支援制度の継続について市の考えを伺いたい。

- (1) 国は、今後5年間で多くの農業者が高齢化などでリタイヤをする見込みとなるため、集落による話し合いを通じ、人・農地プランを作成し意欲的な農家、高齢農業者を総合的に支え合える農業施策を進めるが、当市の見解は。
- (2) 人・農地プラン政策は、市内全体の中で進められると思うが、当市にあった取り組みでいけるか。
- (3) 当市でも平成19年度から取り組まれた農地・水環境保全向上対策事業が5年間実施された。24年度からも継続となった。10アール当たり4,400円が、今年度からは2,640円に減額となった経過は。
- (4) 日本政府は、環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)に交渉参加表明をしているが、日本の農業は小規模農家が多く、個々の農家がこれまでにしっかりとした農村社会を築いてきた。TPP参加によって、農業生産が大きく失われていくのではないかと、市の考えは。

3、当市の節電と自然エネルギーの取り組みについて。

当市におきましても福島原発事故以来、行政、市民全体で進めています節電と、国、県でも注目が高まる自然エネルギーへの期待に対する行政の取り組みについて、以下について伺いたい。

- (1) 節電について、行政、市民で15%以上の目標が達成されたが、新たな目標と継続の考えを伺う。
- (2) 庁舎内の蛍光灯をLEDに取り替えたが、ほかの照明器具の取り換えはできるのか。電気料金はどうか。
- (3) 公共施設の照明や街路灯のLED化を進めているが、市民の評価と費用対効果はどうか。
- (4) 当市の新施設は、太陽光発電の設置とLED照明を使用している。今後も新施設、リフォーム等の建物に、売電のできる太陽光発電の設置とLED化の考えはあるか。
- (5) 当市において流水式小水力発電、地熱発電、バイオマス発電などの設置を進める市の考えはあるか。
- (6) 流水式小水力発電を、農業用水、上下水道などに設置するとコストが掛からないと思うが、民間と行政で設置する考えはあるか。
- (7) 当市の民間会社で、太陽光発電100キロワットの設備を新設する話があります。国・

県・市の補助がどれだけあるか伺う。

(8) 当市で株式会社木島組がペレット工場を建設するが、バイオマス発電などの国の補助率や市の補助率についてはどうか。

4、ジオサイトでの携帯電話不感地区解消について。

糸魚川ジオパークに認定された24サイトの中で、携帯電話不感地区がまだある、解消ができる見込みについて。

(1) 携帯電話は、市民の情報共有と安全安心に大きな役割をはたしている。西海地区で市野々・御前山と三峽パークが、12月15日頃に通話ができる見込みとなった。ほかに携帯電話不感地区の解消の要望があるか。

(2) 24サイトの内、9サイトが携帯電話が利用できないが、解消できるサイトもあると思うが、解消の考えはあるか。

(3) 当市の情報基盤整備が完了した。光ケーブルを利用した携帯電話不感サイトの解消ができないか。

(4) 市内のジオパークの観光案内と説明ガイドを、携帯電話を利用したQRコードの案内するサービスの実施状況、効果はどうか。

以上で1回目の質問を終わります。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩します。

午後1時58分 休憩

午後1時59分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

伊井澤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、年次計画に位置づけ取り壊しを進めてまいります。

2点目につきましては、現在使用している除雪車両車庫の隣接地に除雪車両用の車庫を新たに建設するため必要な用地は取得し、不用な用地は地権者に返還し、大方の土地の整理が進んでおります。

3点目につきましては、地元からは人が行き交う、にぎわいのある施設として利活用の要望があ

ります。市といたしましては要望に沿えるよう、今後庁内で協議をしてみたいと思います。

4点目につきましては、具体的な申し込みは今のところありません。今後は地元関係者と協議をする中で、計画的に解体を進めてみたいと考えております。

5点目につきましては、平成23年度決算額で申し上げますと約530万円となります。

2番目の1点目につきましては、人・農地プランの策定は、人と農地の問題を解決するための話し合いが地域でなされることによって、将来にわたっての地域農業の維持を図る施策であると考えております。

2点目につきましては、市ではプラン策定の範囲を小学校区を1つの区域と考えておきまして、地域からの意見をプランに反映し、県、JAひすいと連携して対応をしてみたいと思います。

3点目につきましては、国の財政措置の範囲内で地方公共団体が決定することとなっており、県の単価決定方針により決定したものであります。

4点目につきましては、稲作中心の当市の農業においてTPP交渉の結果によっては、農業経営の維持が一層厳しくなるものと考えております。

3番目の1点目につきましては、23年夏期には15%を目標として取り組んでまいりましたが、24年度は数値目標を設定せず節電を呼びかけてまいりました。これからも無理のない範囲での節電を呼びかけていきたいと考えております。

2点目につきましては、価格や使用頻度などを考慮しながら、随時取りかえていきたいと考えております。また、電気料金は、消費電力が約半分になりますので安くなっております。

3点目につきましては、LED化した街路灯は明るく見やすいという評価をいただいております。耐用年数、電気料金を考えますと、長期的に見て効果があるものと考えております。

4点目につきましては、可能な施設について太陽光発電やLED照明を設置していきたいと考えております。

5点目と6点目につきましては、民間が行う流水式発電、小水力発電、地熱発電、バイオマス発電などについて支援をしていきたいと考えております。

7点目につきましては、自家消費向けに限定されてますが、太陽光発電についての国の補助率は3分の1で、県、市はありません。

8点目につきましては、ペレット製造工場建設に対して国の補助率2分の1以内で、市は10%以内であります。

4番目の1点目につきましては、居住地区への要望は現在のところありません。

2点目と3点目につきましては、ジオサイトでの整備には光ケーブルの有無のほか電源の有無、来訪者人数などの課題があり、県及び携帯電話事業者に引き続き要望をしてみたいと思います。

4点目につきましては、既に各ジオサイトのリーフレット等において、QRコードの活用を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくご願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

それでは2回目の質問に入らせていただきます。

小学校の統合によりまして南西海小学校も整備され、よくしていただきました。この残されたプールについての整備の考えというのは今お聞きしたんですが、計画的にはいつごろになるんでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

旧南西海小学校のプールにつきましては、ほかの廃校のプールもございませけれども、まず、廃校の中の優先度としては、危険な建物を優先していきたいというふうに考えておりまして、南西海小学校のプールも含め、ほかの廃校のプールも年次計画ということで考えておりますけれども、現段階では、まだ具体的に何年ということはお答えできない状況でありますけれども、いずれにしましても校舎とプール、これは不要になったものということで、年次計画をつくって対応していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

何年ということの計画にないということなんですが、防火水槽とか魚の養殖とか、そういった方面の考えというのはできないもんですかね。今までずっと遊ばしてきたというか、使用してないんですが、そういったほうの考えはあるかどうか。なければ今までどおりということになりますが、そういう調査みたいなものをやられたことがありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

小学校のプールは確かに火災発生時のという部分では、そういった補完的な機能にも使えるというふうに思っておりますけれども、企画財政課のほうで普通財産管理の中で、特にことしの夏、何とか学校を今グラウンドも含めて、建物、グラウンド、プール、これらを再度利活用できないか、地域活性化でも結構です。いろんな意味で利用できないかという呼びかけをして、もちろん地元の区長さんとも協議をさせていただいた上ででありますけれども、呼びかけてまいりましたけれども、残念ながら利活用したいという声はありませんでした。よって、先ほどお答えしたとおり年次的な解体計画をつくりながら、対応していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

1番目に対しては、計画的な中に入れていただきたいというふうに思っております。

それから(2)に入ります。北西海小学校の跡地については、以前は区画をし、そこに車庫を建てるという話でございました。今の市長の答弁では、大体進んでいるというような答弁をいただいたんですが、今、来海沢地区の地すべりのブロックをグラウンドにおいて製作をしております。これは猪又建設がやっておられるんですが、市の許可を得てやっておられるのか。本年度は、車庫を建てるということにならないと思います。

それと大体進んでということなんですが、地権者の皆さんの土地を買収できたのでしょうか。5人の方の地権者がおられるんですが、その買収をされたのか、区画して借れるのか、そういった方向性は、どういうふうになっているんでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長(齊藤隆一君)

今、旧北西海小学校の敷地は、約5,200平米あります。先ほどお答えいたしましたように必要な土地を購入し、学校時には必要でありましたけれども、廃校になってからは、この部分は不要であるという、不要な部分につきましてはお返しをしたというお答えをさせていただきました。全体とすれば、市の所有も含めましてですけども、93%が市の土地になっているという状況であります。残りの土地につきましては新潟県の土地と、もうお1人の方の部分がありますけども、いずれも買収ではなくて交換ということを希望されておりますので、今後の作業の中で約7%弱の土地について整理を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

伊井澤議員。

24番(伊井澤一郎君)

来海沢の工事用の災害の今ブロックを加工している。それについて災害ですから無償でお貸ししているのか、それはどういうふうになっている。

それと工事が今そのために、おくれているような状況だと思うんですね、整備していく工程の中で、それはどういうふうになっているんですか。

議長(古畑浩一君)

暫時休憩します。

午後2時09分 休憩

午後2時09分 開議

議長(古畑浩一君)

休憩を解き会議を再開いたします

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

現在、ブロックヤードとして使われているということがありますが、今、建設を予定している新しい車両基地につきましては25年度、来年度の予定でありまして、現在24年度においては実施設計を進めているところであります。

一方、ヤードとして使っていただいている土地につきましては市の土地でありますので、市のほうで許可を出していると、無償であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

じゃあ無償ということで、今後、復旧のほうへ努めていただきたいと思います。

（3）に入りますが、今井小学校については、私ちょっと聞き落としたんですが、土地と建物について、土地は借地なのか市有地なのか、そういった面の地元とのお話し合いというのは、どの辺まで進んでいるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

今井小学校の校舎の敷地につきましては、一部借地がございます。それにつきましては、今後購入する方向で今検討しておりますが、具体的な話は今のところしておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

これについても早急な解決方法で進めていただきたいと思います。

それから（4）校舎跡地をそういったインターネットで発信してるんですが、全然申し込みがないということで、計画的な取り壊しの方向に進んでいけるとは思いますが、優先順位をつけて、計画的なことをしていただきたいと思いますというふうに思っております。こういった小学校統合等の維持管理費が年間530万円ということで、これをなるべく少なくするような方向に進んでいただきたいと思いますというふうをお願いをする次第でございます。

続きまして、2番の第1次産業再生基本方針についてでございます。

この（1）の人・農地プランの補助率についてでございますが、45歳以下の青年農業者に対して2アール以上を請け負った場合、奨励金といいますか、出るということでございますが、そういった対象者は糸魚川市内にどのくらいおられるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

青年就農者のご質問かと思っておりますけども、今、当課の農業経営支援センターのほうに、就農ということでの相談は今4件ございます。その4件につきましては親元への就農とか、いろんなケースがございますので、今のところ4件の相談をいただいとるような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

これから高齢農業者が多くなってきてるわけでございます。突然農業ができなくなったというときに、こういった人・農地プランの中でも、譲り合い、助け合いで面積を請け負って耕作していただけるのかどうか。これからの中山間地は特にそうだと思うんですが、そういった取り組みの中ではできるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

この人・農地プランの大きなポイントは、人と農地の問題を解決するために地元の徹底した話し合いで今後の地域農業、営農をどうするかというところが、まず大きなポイントだと思っております。

そういう中で、今、議員からのご質問の点につきましては、今後の耕作ができない土地についても、その話し合いの中で、どのように地元で考えていくかということも大きな部分でないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

それは受け入れていただけるというような状況でしょうか。

それで糸魚川市も農業特区がございました。そのときには企業、それから法人が参入しておりますが、今その中では、なかなか耕作を請け負ってもらおうというのは難しいような状況でございます。人・農地プランのほうで請け負っていただけるか。もとの糸魚川市の農業特区のほうの企業では、なかなか難しい状況だと思うんですね。そういった把握というのはされているでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

人・農地プランの中で、1つは今後の地域の中心となる経営体がどこにあるか。あるいは地域の中心となり得る経営体以外の農業者は、どうなのかというところの項目がございます。そのようなところで担っていただける法人なり経営体を、そのプランの中でしっかりと地元の中で話し合いをしていただくというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

先ほどの答弁の中で、その人・農地プランの説明会は、行政とJAで説明をされるということでございました。区域については小学校区を基準としたということでございますが、そういった中でうまくいけるのかどうか。

それと、要するに農家組合長のほうに市が主体となってやるのか、JAひすいが主体となっていくのか、そういった方向性というのは、どういうふうに進めていかれるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

プランのエリアの扱いにつきましては、今、議員のお話いただいたエリアを考えております。今後プランにつきましては、農家からとりましたアンケート結果に基づいて、ある程度、行政のほうで素案をつくります。その素案についてJA、県と事前に協議をする中で、地元の説明会に入っていきたいというふうに考えておまして、地元の意見をその話し合いの中で、プランの中にしっかりと反映していきたいというふうなスケジュールで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

糸魚川市に合った方向で、人・農地プランの推進をしていっていただきたいと思います。

これについては糸魚川市が、何%の達成率というのはあるのでしょうかね。補助金にもありますし、100%の達成だとかそういった達成率というのは、国のほうからも示されておるのかどうかです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

プランにつきましては、24年度と25年度の2カ年にかけてつくるという計画でおります。

今ご質問の目標の達成率というものは、特に掲げておらないわけでありまして、プランにつきましては、最終的には糸魚川市が認定をするという格好になります。その後、地域の状況によってつくられたプランの中身に変更があれば、その都度プランの見直しができるというふうな取り扱いに

なっておりますのであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

糸魚川市に合った人・農地プランを作成していただきたい。多くの皆さんから参加できるようなプランにしていただきたいというふうに思っております。

それから（3）の農地・水保全向上対策事業が、4,400円が2,640円になった減額の経緯ということですが、これは中央のほうから言われてきたという答弁でございます。

最初に説明をしていただいたときには、全然そういう話がなかったんですね。3回目ぐらいの話から、いや、減額になるんだということでもございました。私にしますと参加する皆さんが多くなって、こういうふうになったのではないかということでも聞きをしたんですが、2つのグループの皆さんは撤退というか、やめたということです。2つがまた参加したということで、その面積的なことについては変わりがないと思うんですが、5年間このまま2,640円ということでもございます。支援していただくには文句はないんですが、こういった最初の方向性がやっぱりまずかったというふうに私は思っておりますので、今後こういったことについて料金が中間で上がるか、上がらないか、このまま5年間継続されていくのか、その点について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

農地・水管理交付金につきましては、交付単価につきましては新潟県のほうが決定していただいております。その決定に従って、今、地区のほうに交付をさせていただいておるわけでございまして、単価の決定について市のほうがお願いをするという部分はないわけでございますが、今お話しただいておりますように、第1期のときに比べますと単価が下がっておりますことから、また近隣の単価の状況もお聞きする中で、国、県のほうに要望を出していきたいというふうに今考えるところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

よろしく願いいたします。

それから（4）、TPPについては厳しい状況になるということでもございますが、こういった糸魚川市でも請願を出しておるんですが、そういうのはどこまでいったのか、私にはちょっとわからないんですが、そういった効果というのは、やっぱり国の方針で決まってくると思うんですが、そういったことについては、糸魚川市ではわからないのかなというふうに思っておりますが、厳しくならないようお願いをいたしたいと思っております。

それから3の当市の節電についてでございます、自然エネルギー。

(1) なんですが、新たな目標を立てずに、節電に努力していくということでございます。これも原発の事故以来、非常に電気の使用量を少なくするための政策が出されております。これについても当市のほうで積極的な取り組みがされると思うんですが。

ずっといきまして(4)までいきますが、この新しい施設、それからリフォームをする施設には、全面的にLEDを使用するのか、ある部分だけにするのか、そういった計画というのは立てておられるか。電流が少なくなれば電気料も安くなりますし、そういった面で非常に効果があると思いますが、そういう新しい施設についての考え方は、全面的にLEDにしていくのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長(金子裕彦君)

お答えいたします。

LED化につきましては、施設の改修あるいは改築、それから新しくなる施設等を通じましてLED化を進めていきたいと思っておりますけれども、それぞれの使用する場所について使用頻度等を十分検討しながら、器具が高いわけですので、長期にわたって電気料等で費用対効果があるのかどうか、そういうところを検証した上で、適切な場所についてLED化を図っていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

伊井澤議員。

24番(伊井澤一郎君)

ぜひ推進していただきたいというふうに思っております。

(5) 番に入りますが、流水式小水力発電、それから地熱発電、バイオマス発電についてですが、こういった条件的には糸魚川市は恵まれておると思っています。こういったことで小水力発電を設置の実験といいますか、モデル地区に早川でされたと思うんですが、この中の実験というか実施状況についてお伺いしたいんですが、うまくいっているのか、調査だけであったのか、そういった面についてどうなのか。それから今後の市の中の計画の中に、条件に合った流水式小水力発電の計画をされているかどうか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長(渡辺 勇君)

上早川の中川原用水で調査を行いました。

調査の結果、やはり流量が少なく、発電量は2.4キロワットぐらいしかないということで、工事費のほうが高くつくということで、投資回収年数で大体今の売電価格で26年かかるということでございますので、今のところは調査の段階で終わっております。

それから今後の計画ということでございますが、やはり流水式等の小水力発電の機械そのものが安くなってくるといような段階で投資効率がとれると。それから売電までいくまでの、なかなかの発電量がないわけですから、その施設の近くで電力を必要とするといような施設等があれば、その辺のところを見きわめる中で、今後の計画等は考えていきたいといふふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

糸魚川市は流水式だと小水力発電、バイオマス発電は、地域的に適しておると思っております。こういったのを国、県のほうへお願いして、例えば根知地区が自然エネルギー発祥地といったような、集落的なそういう自然エネルギーの発祥地にしていく。それから皆さんから来ていただく観光地にしていただくという、そういった発想というのは、このジオパークもでございますので、そういった発祥の地としてPRしていく計画はありませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

こういう非常に今はエネルギーが不足している時代でございますので、自然エネルギーというのは非常に我々は生かすべきだろうと思うわけですが、なかなか今まで取り組めなかったのには、それなりのまた理由というのもあるわけでありまして、また今言ったように非常に効果があるなといっても、初期投資が非常に高い部分があったりして、なかなかうまくいかない部分がございます。

特に根知という1つの例をいただきましたが、夏の渇水期に水がなくなるという状況で、水の奪い合いというのが過去に何度も起きておるわけでありまして。そういうことを考えますと、なかなか水力は、ちょっと難しいのかなと思ったりいたしておる次第でございます。

非常に水資源は我々は豊富だと思つわけですが、なかなかそういう発電といところまでいくと、ちょっと難しい部分があるのかもしれない。初期投資費がまた下がってきたり、売電価格が上がることによって、そういったものはクリアできる部分もあるのかもしれない。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

そういうことで、糸魚川市もまた売り出していきたいといふように考えるところでございます。

それから株式会社木島組さんで、ペレット工場を建設ということでございます。このペレット工場に年間500トンとか750トン、3年目に1,000トンを生産するという目標を立てておりますが、行政としてのペレットストーブに対する補助というのは考えておられるのかどうか。これからそういったものが、どんどん普及するといふふうに思っておりますが、そういった補助金につ

いてどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

ペレットストーブの補助についても、今検討しとる最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

検討して、ぜひ補助金の対象にさせていただきたいと思います。結構高いんです。よいストーブだと40万円ぐらいしますからね、補助金が大事だと思っておりますので、そのためには補助金が大事だと思います。ある程度、会社の経営がうまくいけばいいんですが、補助金の対象にさせていただきたいというふうに思っております。

4のジオパークの携帯電話不感地域についてでございます。

おかげさまで普通の集落については、西海地区なんですけど12月15日に通話ができるということになりまして、大変ありがとうございました。これで民間の皆さんのとこの一応携帯電話は、全地区解消というふうになりました。私が一般質問をさせてもらってからずっと17カ所あったんですが、おかげさまで解消できる計画となりました。

これからの時代は携帯電話が必要な時代になってまいりました。ぜひまたジオパークの不感地域の携帯電話の解消について、サイトで9地区が解消されていないということで、不感地域だということですが、これを調査されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

携帯電話、ジオパークにおける不感地区であります。9サイトあるわけですが、一応、全く入らない、それからほぼ入らない、一部入るとか、良好に入るとかという程度の調査はさせていただいております。今9地区というのは、ほぼ入らない、もしくは全く入らないというのが9サイトあるということで捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

全く入らないというところは無理でございますが、なるべく携帯電話会社との話によって解消していくほうに努力をしていっていただきたいというふうに思っております。

市の情報基盤整備の光ケーブルを使用した解消方法というのは、できないことはないんでしょうか。これも携帯電話会社とよく相談されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

ご承知のように、光がいつているのは人が住んでいるところまでであります。そこからジオサイトまでというのは相当距離があるということでありまして、アンテナを立てるにしても光ファイバー、また電源がないと機能しないわけでありまして、そこら辺のところ非常に難しい原因かなというふうに思っておりますが、これまでも県、それから携帯電話会社に要望しておりまして、今後一層また要望をしていきたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊井澤議員。

24番（伊井澤一郎君）

できるだけ努力をしていただきたいというふうに思っておりますし、電源のないところについては太陽光発電もございますので、そういったほうの考えも入れながら、ぜひ解消できる方法で進めたいというふうに思います。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、伊井澤議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩といたします。

再開を2時50分といたします。

午後2時36分 休憩

午後2時50分 開議

議長（古畑浩一君）

それでは、休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き、一般質問を行います。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告書に基づいて一般質問を行いますので、よろしく願いいたします。

1、アーティスト・イン・レジデンスについて。

(1) 糸魚川の文化・芸術の振興策の現状と課題について伺います。

(2) 人材育成や発掘、地域の活性化などを目的に国内外の芸術家を招へいし、ある一定の地域に滞在して創作活動を行う場所を提供するアーティスト・イン・レジデンスを取り入れる自治体が最近見られます。

建設産業常任委員会で市外調査に訪れた徳島県の神山町もいち早く取り入れ成功し、合わせてワーク・イン・レジデンスも推進しているところです。

系魚川市においても「日本一の子ども」を育てる一環と文化・芸術の振興、地域の公共施設活用、地域の活性化、更に交流人口拡大にもつなげる施策とありますが考えを伺います。

2、今年の異常気象による稲作への影響等と放射性物質を含む汚泥受け入れによる農業への影響について伺います。

新潟県の2012年産米作柄について、作況指数は10月末で104、上越は103のいずれも「やや良」と発表されておりますけれども、生産者からは「2割減」あるいは「3割減」の声も聞かれます。

また、県産一等米比率は、やはり10月末で64.4%、コシヒカリについては59%と過去10年間で3番目に低いとされております。

夏の高温・少雨、9月のフェーン現象の影響とも言われているようですが、特に新潟県の落ち込みが際立ち、深刻な打撃を受けた生産者もあるのではないかと思います。

さらに10月11日の集中豪雨では能生地域を中心に被害もたらされ、追い打ちをかけたことから伺います。

- (1) 系魚川市の作況と一等米比率について。
- (2) 10月の集中豪雨による農地への被害と対応について。
- (3) 放射性物質を含む汚泥処理の受け入れによる農作物への風評被害防止対策について。

3、並行在来線等について伺います。

- (1) 並行在来線会社「えちごトキめき鉄道株式会社」の運行計画がまだ示されていません。現在の取組状況について伺います。
- (2) キハ120のラッピング車両や大系線花いっぱい事業など、今年行われた各種記念イベントの成果と今後の活用について伺います。
- (3) 雪や強風による大系線・北陸本線の冬季運行確保策について伺います。

以上1回目の質問、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目のアーティスト・イン・レジデンスのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2番目の1点目につきましては、市内の1等米比率は11月末現在、コシヒカリが71%であります。また、作況は地域や個人により作況にばらつきがあり、農業普及指導センターやJAひすいで分析をいたしております。

2点目につきましては、国庫補助の対象となる災害が農地で6件、農業用施設で4件あり、12月10日から災害査定が行われる予定であります。

3点目につきましては、廃棄物処理法が適用される1キログラム当たり100ベクレル以下のものの処理であり、実質的な影響はないものと考えております。

また、処理に際しましては工場周辺で放射線量を測定し、企業が測定したデータとあわせてその測定結果を公表することで、風評被害の発生を防止していきたいと考えております。

3番目の1点目につきましては、これまでも運行形態、経営計画を示すように要請いたしておりますが、検討中で示されておられません。

2点目につきましては、花いっぱい事業や鉄道祭りなどのイベントには、市内外からたくさんの参加をいただき、一定の成果があったものと考えております。

また、来年度は北陸本線全線開通100周年に当たり、ラッピングしたキハ120の利用策を糸魚川地域鉄道部に提案いたしております。

3点目につきましては、JR西日本へ要請してきたところであり、特に大糸線の雪崩対策として防護柵を強化したことを糸魚川地域鉄道部より報告を受けております。

強風につきましては、近年の脱線事故の経緯から風速25メートルを超えた時点で、運転を一旦取りやめることとなっております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくご願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、文化協会及び各文化団体等の活動や、施設利用の助成などを実施しておりますが、より多くの市民が文化活動に参加して、文化、芸術に親しんでいただくような環境づくりも重要な課題であると考えております。

2点目につきましては、地域の活性化に役立つものと捉えており、当市に定住している芸術家もおられますので、いろいろな観点から検討してまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

では、再質問をお願いいたします。

文化、芸術、幅が広いので、きょうは音楽、あるいは美術等に絞って質問させていただきます。

県内には最高峰の音楽コンクールとか、あるいは美術のほうでは県展、芸展、ジュニアのほうではジュニア美術展等ありますけれども、特に県展、あるいは音楽コンクールは、場所によって巡回等もやっておりますけれども、いい芸術に触れる機会を提供する意味で、当市においても巡回を招

聘する予定とか、あるいは企画はありませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

県展につきましては平成27年度、合併10周年の記念事業として迎えたいというふうには計画をしております。音楽関係につきましては、今のところございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

糸魚川市には市展があります。この市展の目的、あるいは取り組み状況、現在の状況を伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

市展の目的につきましては、多くのアーティストが、多くの市民の方々に芸術作品を見ていただき、また、見る側のほうからも芸術に身近に触れていただく、そういう機会の創出であります。

状況につきましては、10月と11月で市展、そして能生作品展、青海美術展を開催しております。作品数はトータルで739点、出品者数が521点、入場者の数が2,450人です。特に市展につきましては、高校生の出品もあり、また、奨励賞をいただいておりますので、非常に若い人たちの活躍も目立ってきております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

市展ですけれども、実行委員の方々はおられるかと思えますけれども、実行委員の方々からいろんな提案等をされて、この改善といいましょうか、振興に取り組んでおられるかと思うんですけれども、最近出されておりますいろんな提言は、どんなものがあるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

運営委員の皆さんは10人おられまして、市外の方もおられます。三、四回打ち合わせをやりながら、市展を開催しておりますけども、どのような方法で展示をするか、そしてどのような招集をかけるか、それと作品の講評、そういうものも身近に先生方のご意見を聞いてやる方法、昨年に比べますと、今までは講評については別時間を設けてということでありましたけども、今回は作品ごとにそのギャラリーの中で見学者の方々を交えて講評されて、1点、1点先生のご意見を聞いたり、また、出品者のご意見を聞いたりということで、非常になごやかな雰囲気進むことができたということでもあります。

いずれにいたしましても、非常に10人の方々からご意見をいただいて、苦労しているいろいろプログラムを練っておりますので、こういうものを生かして、毎年、毎年よりよいものをつくってまいりたいというようには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

実行委員の皆さんのご苦労というのは、本当に敬意を表しておるところですけども、先ほどの答弁の中に、ことしは高校生が参加されてよかったと。高校生の参加条件というものは、どのようになっているんでしょうか。あるいは高校生以下は、どのようになっているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

高校生につきましては、水彩画、また油絵につきましては、今、高校のほうには、そういうカリキュラムがありません。また教える先生もいないので、今回、講評に来られました上越の先生も、非常に残念がっていたということで、これについてはまた機会を捉えて、市内の高校にもお声がけをしてまいりたいというふうに思っております。

それと絵画以外にも、どちらかというトデッサンのようなものも、新しいジャンルでチャレンジをしてやられた生徒もおられます。そういう意味で、そういうものを運営委員の中では絵画とか、そういうものにとらわれないで、そういうトデッサン、また、いろんな観点の絵も入れる必要があるというようなお声をいただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

やはり若い人たちが、こういったものに参加するという機会、大事なことと思います。ぜひいろんな参加しやすくするようにして、この事業というものを、さらに発展させていっていただきたいなと思います。

また、平成27年に県展が巡回する予定だということで、またこれが成功するように尽力のほうをお願いしたいと思います。

市の行う文化事業というのは、特に音楽とか芸術というように、入館者とか入場者を1人でもふやす努力というものも、もちろん必要なんですけども、そういう入場者数ばかりを気にした内容のものじゃなくて、真にいいものとか、歴史的に普遍的なものとか、世界に通じるものとか、そういったものに触れるということも大事じゃないかなと私は思うんですけども、そういう地道ではありますけれども、そういうことを続けていくことに対して市のほうでは、どのような考えをお持ちでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

市民の多くの方が生活の中で文化に触れる機会をたくさんつくってあげる、そういう場を設けるということは大変重要なことだというように捉えております。

県展の巡回も1つの方法でありますけれども、絵画の中でも、市の持っている資産の中にも非常に有名な画家のものもあります。そういう面でも、市に県展以外で大きなものというのを呼ぶことはなかなか難しいんですけども、今市が持っている財産の中でもそういうものがありますので、企画展の中で十分市民の目で見えていただいて、文化の奥深さ、また、プロのアーティストのすごさというものを身近に接する機会をつくってまいりたいというように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひお願いしたいと思います。

今のお話の中でも例えば先日まで、今もやってるんですかね、歴史民俗資料館で名僧墨蹟展がありました。ああいう企画というのは、なかなかいいんじゃないかなと。周知も一生懸命されてるんでしょうけども、入館者もちょっと気になる場所なんですけども、やはり続けて提供してもらえたらなと思います。

ちょっと話は変わるかもしれませんが、市民会館が今リニューアルの話があります。やはりいいものをやろうとすると、例えば音楽の面では音響というものが、非常に大事な要素になってくるわけなんですけれども、今現在の市民会館の音響についてどのように考え、またリニューアルで、果たして音響はよくなっていくのかどうか、その辺の検討というのはされているのかどうか、考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今リニューアルの中で、検討中での答えになるとは思いますけれども、音響、照明も含めてですが、非常に古くなっております。特に音響についてはデジタル化に対応しておりませんので、これから入れるものは全てデジタル化、それと音響の操作も全てプログラム操作ができるということでもあります。

それと椅子の配置や、また天井や舞台の中での反射板、そういうものも全て音響のシミュレーションの検査をやりまして、角度を直したり、またすき間をなくしたりということの対応をしてみたいというふうに考えております。

それと音響のスピーカーについても、今は壁かけのものは正面の上に2個あるだけでございますので、そういうものも全て直しまして、それと舞台の正面、左右も今ないわけでありますので、そういう部分も設置をしたいというふうな案で計画をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

私の聞き方が、ちょっと言葉足らずだったのかもしれませんが、今言いたいのは生の音の空間の音響、空間のものの話なんですね。残響とか、非常に繊細な音とか、そういったものの音響がリニューアルで果たして改善されるのかどうか、そういったことを検討しているのかどうかということなんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

大変失礼いたしました。当初、残響の検査も行いまして、当初以来、非常にいい音響であるということでもありますので、普通の生の演奏につきましては、舞台の天井にある部分に少しすき間がありますので、そのすき間を直して埋めて、それと、それによって今度はホールの客席の天井の角度も全部直すというようなことで計画をしております。そういうことをすることによって、当初の残響の状況についても、非常にいいものが保てるということでは計画をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

私としてはリニューアルでやれるものは限界があるなど、音響に関しては思っております。なるべくいいものにしてもらいたいなというので要望させていただきます。

先ほど課長の答弁の中で、市にある美術品ということで話が出ましたが、私も常々思っているのでは、学校へ行けば学校にいろんな美術品と思える大きな額とか、OBや、あるいは建設関係

の方が寄贈されたりという絵、あるいは高価な額がありますけれども、廃校になった美術品というものは、リスト等はあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えします。

廃校になったものは、基本的には統合された学校に保管なり、そのリスト等は保管をしておるといってございませう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

置いてある美術品は、どちらかというところ、その学校のところであった思い出や、いろんな経過があって、そういう美術品があるわけなんですけれども、統合されたり、あるいは場所が変わったりすると、その意味とか、あるいはその本来の美術品の価値というものが伝わっているかどうか、そういったものがちょっと懸念されるわけなんです。

いろんな学校に行くと、いろんな思わぬようなお宝のような絵画もあつたりするわけなんですけれども、残念ながらそういったことが全然解説と言ったらいいんでしょうか、何もなかったりする場合があつたりしますよね。なのでそういったことの充実とか、子どもたちがこういったのを見て、どうだという、そういう感性に訴えるような何か方策はできないもんだらうかと思ひます。また、そういう美術品に対するリストをつくつたらどうかと思ひます。

また、市民の要望に応じて高価な額をはじめ貸し出し等、そういったことはあつたら可能なもんなんではないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えします。

そのような方向で、学校とも協議しながら進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

大事なものは、小さいころから美術や芸術に触れる機会というものを多く提供することがあるかと思ひます。そういった意味で、ぜひその辺も進めていただけたらと思ひます。

新潟県の下越地区では、子どもたちの想像力や豊かな感性を育むことを目的にして、新潟教育アート展というものがありますが、これはご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

大変恐縮ですが、ちょっと承知をしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

先日も新潟日報等にも紹介されておりましたけれども、組織するものは下越地区の図工や美術の教員だそうです。下越の美術教育研究会という組織をつくっておられるそうです。ことしで9回目ということで、園児から高校生まで2万1,000点の応募があるそうです。

審査によって、この審査というのも大学の専門家らしいです、グランプリに、ことしは28点選ばれて、入賞作の1,200点は、1月に新津の美術館で展示をされると。非常にこれに入選するという事は難しいし、大変なことなんですけれども、学校、あるいは先生、それから地域、保護者、みんな一体となって取り組んでおられる姿がよく伝わってくるんですけれども、こういうものを、いきなりこちらでもと言っても難しいかもしれませんが、何かの参考になればと思います。考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

上越地区は上越美術教育研究会というものがございまして、そちらで絵画、版画等を募集をし、審査をし、奨励をしているという会がございまして、上越地域の子どもたちは、そういったところを捉えながら、参加をしてみたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしく願いいたします。

アーティスト・イン・レジデンスについては、先ほど教育長から随分前向きなご答弁をいただいて、進めていただけたらと思いますけれども、やはりこれもいきなりいろいろと考えて、大きなことを考えると、なかなか大変かなと思いますけれども、私としては、できればまず地域等を絞って、やっていったらどうかと思っております。

というのは能生地域では、昔から北前船で栄えた豪商とか、あるいは庄屋さん、いわゆる富裕な

方が芸術家を招聘して、長期間滞在させて、そこで創作活動をさせて、現在でも貴重な文化財が残っていると。昔からのそういうアーティスト・イン・レジデンスの土壌が、もうあるなというふうになっているところでもあります。また昨年、能生マリンドリームで60名以上のクラフト作家が集まりまして、また来年以降も予定しているということで、そういったことから連携等をしていってもいいんじゃないかなと。

また、先ほどの答弁の中で、能生在住のアーティストというと、津軽三味線の高橋竹山さんもおられるわけなんですけども、よくこのことについて彼女とも話をしますけれども、やはりこういうことを求めているまたアーティストも実際おられるそうですので、そういったことの連携といいましょうか、協力を得ながら、やっていかれたらどうかと思います。

空き家の改装などをしまして、長期滞在を可能にして、今度、能生のマリンホールをアトリエとかスタジオ、そういうふうにご利用したらマリンホールの稼働率も上がるんじゃないかなと思いますので、ぜひご一考をお願いしたいと思います。

先進的な事例で先ほど神山町の話をしましたけれども、ほかにも秋吉台の国際芸術村とか、近くでは似たようなのでは越後妻有アートトリエンナーレですか、そういう事例もあります。本当にあれは大きな事業なんですけれども、やはり文化、芸術の振興というのは、生涯学習の充実にもつながっていく大事なことだと思いますので、積極的な取り組みというものをぜひ進めていってほしいと思います。

そういうことで、次に農業のほうについて質問をさせていただきます。

ことしの作柄、収量、品質の低下、非常に深刻な話をよく聞きます。かつてない不作だということで、最近配られたJAひすいさんの営農情報でも、23年米は品質及び収量がよくないとあります。このことについて市では、その原因というものを、どのように把握されておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

お答えいたします。

第1回目の答弁でもお話をさせていただきましたけれども、地域的にも、また個人的にもばらつきがあるということで、JAひすいのほうでは今分析をしている最中でございます。

その中で少し情報がありますので、お話したいと思っておりますけれども、やはり兼業農家が多いこと、また高齢化等で、適切な水管理ができなかった。また、あるいは必要な時期に養分を補給する部分が、きめ細かくできなかった等の問題を抱えているやには聞いておりますけれども、まだ全体的な要因というのは、市のほうでは確認をとっておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

個人差、地域差があるということは、わかっているけど、これから今調査中だと。

今現在わかっている情報の中で、特に落ち込みの激しい地域というのはどちらか、そういったことはわかりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

地域別の要因も、また確認しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

心配される1つは、新米の販売状況、あるいは集荷の状況、価格の状況等なんですけれども、この辺については、どのように把握されておられますか。また何か影響があった場合、その対策として、今後どのように打っていくのか対策を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

価格面等の情報はまだ入っておりませんが、ことしの作柄の分析を今行っておるところでございますけれども、今後の安定、高品質の生産に向けての取り組みとしては、地力の低い水田が多い糸魚川市の状況の中から、糸魚川らしい栽培方法を求められているし、また、その部分は指導していかなきゃならない。それから安定的に穂数、もみの数が確保できて、登熟のよい栽培方法の指導もしていかなきゃならないだろうというふうなこと。また、安定栽培に向けては土づくり等で、今後の高品質な生産に向けて指導に取り組んでいかなきゃならないというふうなお話を、JAひすいからいただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

一昨年、2010年産も非常に猛暑で、品質、収量が低下しました。今のようなお話は、そのときにもあったように伺います。その反省というものは、なかなか生かせなかったのかなという気がするんですけども、その点はいかがか。

また7月に、糸魚川産米ブランド生産者大会がありまして、その内容というのも、これを十分意識した内容だったように思いますけれども、そういったものの生産者への周知徹底というものは、どのようになされたのかなというのが気になるんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今お話のありましたブランド大会での農業者に向けての周知があったわけですが、実際にことしの反省点といたしましては、もう少しきめ細かな営農指導が必要だったのかなというふうな部分、反省点を今ととるところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

その2010年なんですけども、戸別所得補償制度の変動部分で、生産費が平均よりかかったということで高く算定されました。その結果、農家の所得が上がったわけなんですけど、ことしはこの辺の見通しというものは、どのようになるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

申しわけありません。今まだそのところは、まだ情報の確認をとっていないところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ではもう1点。来年の生産数量目標、全国的には2万トンの減という厳しい数字が出されました。主食用米需要量が、新潟県は北海道に抜かれて2位になったという状況もあります。他産地の追い上げというものが、非常に厳しくなっているんですけども、この品質収量のことしの落ち込みというのは、来年の生産数量の割り当てにどのように影響してくるか心配なんですけど、その辺の情報、あるいは対策はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

ことしの品質の落ち込み等で、今、議員が言われますようなところの懸念材料は十分承知しとるところなんですけども、ご質問いただいた部分の情報につきましては、まだしっかりとっていないところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

次に、集中豪雨の被害なんですけど、それも算定がこれからということで、しょうがないかなというところがあるんですけども、この算定がこれからということで、じゃあ工事等もこれからになるわけですけども、冬期に工事を行う形になっていくということなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

ことしの中で大きな災害は3つあったかと思います。1つは7月の6日から8日による梅雨豪雨、それから9月30日から1日の台風、それから10月11日の豪雨ということで、大きく3つがあったと思っております。

答弁にもありましたけれども、10日からの災害の査定を待って現地の復旧に当たるわけでございますけども、ご案内のようにもう雪がちらついておりますので、査定を受けたにしても実際に現場に入りますのは繰り越しの来春というふうな予定になろうかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ことしは降雪量がどうかわかりませんが、その辺のまた影響というものが気になりますので情報等、あるいは管理のほうをお願いしたいと思います。

もう1点、この集中豪雨で今回気になったのは、耕作放棄地の対応であります。以前、田んぼだった土地の崩壊の場合の対策として、一般的に応急処置で終わっているんじゃないかと思っておりますけれども、その点はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

特に10月11日の豪雨につきましては、国の災害補助を見込んでおります件数が農地では6件、施設のほうでは4件、そのほかに補助の対象にならない単独の災害が約10件ほどございます。それらにつきましては、単独でもう既に手をつけているもの、それから、これからまた冬期の前に施さなくちゃいけないところ等もございますけども、そのようなところで今対応させてもらっておりますのでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

その10件の中に、じゃあ耕作放棄地も含まれていて、これから対応していくということなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

申しわけございません。その10件の中で、耕作放棄地がどれぐらい数を示しているかというのは、ちょっと確認をとっておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

災害と耕作放棄地のいろんな関係等、これから重要な要素となってくると思います。またいろいろと情報等がありましたら、お願いしたいと思います。

次、放射性物質の汚泥の処理による受け入れのことについて伺います。

まず、市長が受け入れを表明されましてから、市内外からいろんな手紙とか、あるいは電話とかメールとか入っていたら、それをちょっと教えていただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

市長が表明しましてから一般的には、個々の電話は担当課のほうへ行くと思いますが、市長への手紙、あるいはファクス等での数件があったというふうに思っております。ですが中身は糸魚川の方よりも県外のほうから、そういうような反対的な意見があったというふうに理解をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

風評被害なんですけれども、不測の事態が生じて影響があると見られる業界というのがあろうかと思えます。市内の農業団体、林業団体、漁業団体、観光団体等、いろいろ想定されるわけなんですけれども、市民への説明会はこれまでされてこられましたけれども、そういう団体との話し合いというものは、これまでされてこられたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

質問の風評被害が生じるおそれがある団体ということで、私ども一番心配といいますが、風評被害が出るということは、一応、農業関係かなというふうに思っております。この表明前に、一応私どもと、それから処理企業と訪問した上で、この処理についてご説明をさせていただいたというような状況でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

すぐに思い浮かぶのは農作物への被害ということで、そういったことで農業団体の方とお話されたんじゃないかと思えますけれども、できる範囲で内容等、あるいはまた団体のほうから、どんな要望が出ていたか教えていただけたらと思えますし、林業とか漁業。例えば林業だったら、山菜とかきのことかいろいろあるわけですね、食べ物を扱ったりする。また、漁業のほうでしたら内水面等もあるわけですし、そういったことから含めて、そういった団体への説明というのは、考えなくてよかったのかなと。あるいは話をしたんだけど、しなくていいというふうに言われたのかどうか、ちょっとその辺も伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

まず、1点目の内容なんですけれども、やはり新潟県というのはお米というのが非常に全国的に名が通っていると、新潟米ということで非常に名が通っていると。特に糸魚川においても、この新潟米の中でも地場ブランドをつくって売っていると。そういうものにも影響が出ればという非常に大きな心配をされておったというような状況で、その団体の方のご意見では、できれば避けてほしいと、こういうご意見でございました。

それから2点目の件につきましては、一番大きな団体といたしますが、市内で一番影響が出るというのは、やはりお米だろうということで、農業団体というところでやって、ちょっとまだ林業団体とか、あるいは漁業団体というのは、ちょっとまだ説明いたしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

じゃあ農業団体とだけやってこられたと、今後もその予定はないということですね。

不測の事態が生じた場合、簡単に言うと風評被害が発生した場合、協定案では排出元、業者、市の3者で、対応を協議というふうに言われておられますね。100ベクレルから1,000ベクレルのことについて県のほうでは、この放射性物質がまじる原因となったのは、知事なんかは東京電力のあの事故が原因なんだから、責任はそちらにあるんだということなんですけれども、法的には問題ないかもしれませんけれども、100ベクレル以下は、全然じゃあそちらのほうと関係ないのかどうか。東京電力等の不測の事態が生じた場合、その辺の見解というのはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

基本的には、この原因というのは、当然、東京電力の事故によって全国に放射性物質が飛散してしまったということでございます。

今回、私ども糸魚川市でセメントを処理するというのは、いわゆる新潟県内で飛散したものが河川水に含まれて、浄水場の汚泥にたまったと。この汚泥について、糸魚川市のセメント会社で処理をするということでございますことから、私ども協定の中で、私ども糸魚川市が当然中心になって進めてるわけですが、一番糸魚川市への原因であります3者といいますが、いわゆる排出元と、それからこの処理を行う企業と、そして私ども糸魚川市が承諾をするというような形で、今、話をさせていただいているわけですから、この3者が、私どもが中心になってきちっと協議をして、どんな被害が生じるかというのは、まだ今のところ明確でございませんので、これについてはなかなか予測もしがたいことから、いわゆる、もしそういう自体が生じた場合は、きちっと協議をして対応していくということを、今、協定案として私どもが各企業及び排出元へお示しをしているというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

結局、不測の事態をどうしても想定した話になっていくわけなんですけれども、その発生したときに、この放射能というものは、やはり高度な専門的知識というものがどうしても必要になってくる。以前の答弁では、県のほうにあるからつなごうということなんですけれども、やはりもう今の段階から、そういう専門的知識を持った人、あるいは機関を当初からやっていかなければ、起こってからでは間に合うのかどうか。ちょっとその辺の懸念があるんですけれども、そういう対策的なことは考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今回、私ども糸魚川市で処理をいたします汚泥については、もう説明会や全員協議会でご説明しておりますように、いわゆる地方で処理をなささいという8,000ベクレル以下というものがございます。それを大幅に下回る、いわゆる原子炉等規制法で定められております放射性廃棄物でない、いわゆる通常の廃棄物処理法を適用できる産業廃棄物ということで、市長答弁にもありましたように、1キログラム当たり100ベクレルと。例えばの例で市民への説明で使わせていただいておりますけれども、一般の食品基準と同程度の低いレベルであると。こういう判断をしておりますから、私どもは安全と今判断しております。

当然、技術的なことについては、私ども県の放射能の担当課とも、いろいろご相談にこちらから伺いまして指導を受けているというような状況でございますことから、今現在、私ども市長判断のとおり、今、私どもの市として対応していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番(田中立一君)

今の答弁は、これまで説明会等でも何度も聞いてきてるものなんですけれども、じゃあちょっと変えまして、実際問題の話をさせてもらいますと、放射性物質の被害の対応というものは、その因果関係というものが問題になってくるんじゃないかなと思うんですよね。これが果たしてこの処理によるものなのか、それともそうでないものなのか、そういったものの立証ということ、そういったものを含めて考えを、今のうちにやっていかなければいけないんじゃないかなと思うわけなんですよね。

また、これは一体いつから風評被害というものを、これはうちの売り上げが少ないのは、このせいでと言って損害賠償を請求した時点で発生したというふうになるのか、そういう基準というものが全然見えてこないということが、まず1つの不安でもあるわけなんです。そういったこと1個1個の対応というものが必要なんじゃないかなと。それにはやはり専門的な知識を含めて、今からやっていく必要があるんじゃないかなということなんです、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長(吉岡正史君)

先ほどから申し上げておりますように、風評被害というのは非常に難しい、あるいはまた形態もさまざまであります。したがって、今からそれを予測してというのは、非常に私どもとしては不可能だと思っております。したがって、その出た時点でどんなものが出てくるのか、あるいは、そういったものが出てきた時点で、きちっと対応していきたいというふうに思っている、今事前の段階で、どんな形で何をもとにと、あるいは、どんな形で出るのかというのは予測しがたいことをごさいますことから、一応、協定の中では、生じた場合には、きちっと原因者であります2者と私ども市という中で、しっかりと対応していくという形で、今、協定案というものをお示ししてるところでご理解ください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

だから、また市民のほうでは不安なところなんです。その辺のところをきちっと対応できるようになっていけば、誰も不安を持たないということだと思うんですが、個人の農家でも、あるいは団体でも、わかりやすい基準というものがつくれないもんかなと。何かこういったことが発生したら、このように対応しますという、きちっとしたものが何かできれば、そんなに不安はないんじゃないかなと思うんです。

きのうも説明会で意見がありましたけれども、米でも野菜でも食べ物、放射能がたとえ微量でも検出されたということになって、基準以下だから売ってもいいと言われても、実際問題としては、もう売ることがなかなか難しいのがおわかりかと思えます。その処分そのものにしても、やはりレベルが少ないからといっても、いろんな手続や何かあるかもしれませんし、そうしたら、そういう

ものが発生したらどうしたらいいんだというものの対応が見えないと。1個1個いろんなものが、やはり考えられるんじゃないかなと。

だからそういったことを考えて、不安を取り除く努力というものが必要なんじゃないかなということ言ってるんです。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

3日間の説明会の中では、今、議員言われましたように、きのうの中では農家の方が実際に来られて、そのような不安の声が聞かれました。

やっぱり市としましては、これまでのいろんな放射線量の測定をし、さらには新しく土壌調査等もしてますので、そういうものをしっかり踏まえておきながら、次の対応に使っていくということが一番だと思ってます。それらの変化をしっかり見る中で、これらに対応していきたいと思ってますし、また、専門家の意見というのは、やっぱり早い時期には聞いておくことも、やっぱりそうしないと後で問題になってから、さあさあということでないように、またいろんな角度で、もう少し内部でまた検討して、万全な策を講じれるようにしてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

そういう答弁が欲しかったところもありますね。ぜひそのように進めてというか、やらないのにこしたことはないんですけども、もしも受け入れていくなら、そういう市民の不安を取り除く努力は何かというものは、そういったことも1つあるんじゃないかなと思うところであります。

やはり心配されるのは、いろんな影響というのは仕事、あるいは商売の中で、因果関係が果たしてこれはどうなのかというもの、泣き寝入りすることが市民にないように、やはりこれを決断するものは、市民の安全・安心というものが前提ということは、もう再三、市長も言われてるわけなんです、ぜひその辺のところを払拭するようにお願いしたいと思います。

放射線量の測定のことについて伺いますけれども、作業工程の中で集じん機があります。集じん機で99.9%が除却されるというんですけども、この集じん機というものが、私にはよくわからないんですけども、掃除だとか、あるいは故障のときとか、あるいはメンテナンス、そういったものはどのようにされていくのか。

それをなぜ聞くかということ、どうしても1回1回の作業では微量かもしれませんが、そこに全部集まっていくわけですから、放射性物質が蓄積していくんじゃないかなと。その辺の測定というものは、どのようにされていくのか。その辺もちょっと心配なんです、そこも含めてお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

セメント会社の電気集じん機の保守管理ということでのお尋ねであると。これにつきましては、企業はきちっと労働基準安全衛生法というような企業に適用される法律に基づいて、きちっと管理されるものというふうに私どもは思っておりますので、特別私ども市がその管理方法について、あるいは作業の方法について、特段の指示をするということではございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

特段の指示をする必要はないかもしれませんが、もし集じん機の付近に、あるいは、ばいじんに濃度が蓄積してきたり、あるいは高まっていくおそれがあるのかどうか、そういったことや何かについては、情報は持ってもいいんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

そのためにも私どもとしては、当然、敷地境界から一番影響があると思われる周辺等で、きちっと放射線量をはかっていきたいと。また事故等があれば、これは今度、公害防止協定等において企業から報告していただくことになると思いますので、その時点で私どもとしては放射線量の測定と、そういったものを私どもができる範囲内でやっていくというふうなことでございます。また企業内の事故は、今度は労働基準監督署というきちとした監督員がおるわけですから、そこがきちっと企業に指導をするわけでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

この協定案では1カ月に1回、放射性セシウム濃度、排ガスのセシウム濃度を報告する。処理施設敷地境界における放射線量率は、7日に1回行うというふうにされてますね。その放射線量の測定というものは、測定してから結果が出るのは、即、出るんでしょうか。それとも時間が、かなり必要なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

まず、排ガス中の放射能の量の測定でございます。これについては企業が測定した資料を、きちっとした登録機関で濃度測定をするということで、やはり一定の時間がかかります。

それから空間線量につきましては、私どもと同じように機器を持って行って、その境界ではかりますことから、はかった時点ですぐ数値が出るものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

気にするのは調査して、測定してからそのタイムラグと言ったらいいんでしょうか、その期間に何があるかとか、そういったことなんですよね。その辺の心配がないようにしてもらいたいなど。

いろんな説明会の中では、四六時中やはり監視してもらいたいとか、常にオンタイムで情報を流してもらいたいという意見があるのは、やはり当然のことではないかなと思いますので、なるべくその辺のタイムラグがないようにオンタイムで情報を流してもらおう。あるいは、なるべくそのときの数値がすぐ出るように、お願いしたいなと思います。

先ほど質問の中で原因別、いろんなことを考えてはなかなか難しいので、試算とかシミュレーションがなかなかできないと言われたかと思うんですけども、やはり作業の、相手は企業なので、どこまであれかもしれないですけども、いろんな工程の中で、例えば停電だとか故障だとか、いろんなことがあろうかと思えますけれども、人為的に間違ったとか、そういったことにおけるシミュレーション等は、やはりやってもらいたいなと思うんですけども、その辺のことはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今シミュレーションというと、もうあたかも事故が起こるようなというふうになるんですけども、私どもが持ってくるまずものが、いわゆる先ほどから申し上げておりますように100ベクレルという、いわゆる放射性物質は扱わないものであると。したがって、放出されるものは100ベクレルより高いものではないというふうに判断しております。

そういったことで、どのようなことを想定されてるのか、ちょっと私は田中議員さんのシミュレーション、シミュレーションと言われることが、ちょっとよく理解できないんですけども、いわゆる通常、国がきちっと認めてる方法で作業し、そしてなおかつ国がきちっと決めてる基準でもって、きちっと測定をして環境省へ報告すると。こういうことが義務づけられておりますことから、私ども1市町村が、どういう時点で想定してシミュレーションをせよというのか、ちょっと理解ができないというような状況です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

そのことについても話もしたいんですが、時間もありますので。今回、問題となっている汚泥処理というのはクリアランスレベルというのは、先ほどから随分答弁の中にありますけれども、低線量とはいっても総量が非常に多いと、長期にわたるということであったもので、半減期がまた長くて、時の経過とともに蓄積していくんじゃないかというおそれも抱いているわけです。説明会を聞

く限りでは、まだ不安が取り除かれていないんじゃないかなというところを、ご理解いただけるんじゃないかなと思います。そういうことで、いろんなことを想定して話をさせてもらっているということなので、一言で言うと、慎重にやってもらいたいということでもありますので、要望とさせていただきます。

次に、並行在来線のほうに入らせてもらいますけれども、なかなか市のほうでも経営計画についてお示しのように、言っているがなかなか出てこないということでもありますけれども、隣県の富山県のほうでは、いろいろと報道ではもう例えば鉄道の資産譲渡についても、実質無償化に近い条件でJR西と合意したと。あるいは石川県もそのような内容で、鉄道資産の譲渡のほうが進みそうだという話も出ております。

そういう中で新潟県のほうでは、まだ国の支援策のほうも、まだよく見えないというところでもありますけれども、やはりJRとこのような鉄道資産の譲渡についても、初期投資の負担を防ぐためにも必要じゃないかなと思うんですけれども、JRとの協議というのは、どのようになっているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

並行在来線は新しい会社の基本計画がなかなか示されないということでは、市としましても、これまでいろんな特別委員会、議会等にもお約束をしながら、いつごろまでに出ますということで説明したわけですが、なかなか出ないということでは会社等に、あるいは県に、このことの実情を訴えながらきとることを、ご理解願いたいと思います。

先般、今回の県議会の中で県知事が、当初の説明の中では来年の1月に公表して、年度内に決定をして、経営の基本計画案をつくりたいということを説明をされております。JR等の交渉については県が責任を持って対応するというので、これまで説明をお聞きをしております、それぞれの会社、あるいは沿線市で交渉はできないんですよということで、県は責任を持ってやるということを常々言ってきておりますので、県にはしっかり県として会社のこと、あるいは沿線住民、あるいは3市の実情等を考えて十配慮する中で、しっかり対応してもらいたいということを訴えてきております。

それから先般、富山県のほうが新聞等に出ましたが、新潟県もそれなりにいろんなJRとの用地等の話はしとるそうです。それから780億円を、県知事が国との交渉の中で確保したということ、そこが大きなポイントになるんですが、それらにあわせながら、しっかり県でも対応してるということをお聞きをしておりますので、なるべく早く時期にお示しをして、沿線市でもしっかりと考え方をまとめて、また県と協議する場を設けていただきたいということを、これまで話をしておりますので、もう少し具体的なものは、お時間をいただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今もいろんな報道の話も出たわけなんですけれども、その一連の報道の中で新潟県ではＪＲ西・東の株を保有ということもありましたけれども、この真意というものを、何か情報がありましたらお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これは直接聞いたわけではありませんけども、話の中ではＪＲ西・ＪＲ東に意見を言える立場として、株を取得するというございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

もう少し時間を待ってということなんですけれども、会社の運営方式なんですけども、今は上下一体方式で進めて、基本で考えてるというんですけれども、国の公的支援スキームの見直し状況から、最終的には経営会社が地元などと調整の上、最終決定するというふうに、課題と方向性のときにありましたけれども、780億円の支援によってはコスト負担が少ない、メリットのある上下分離方式もあるんじゃないかなと思うんですけれども、これには地元調整ということも書いてあったんですけれども、国の支援策によっては、こういったこともあるのかなと。方式を上下分離方式にすることもいいのかということも考えられるわけなんですけども、そのときは糸魚川市としてはどのように考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

これまで県、あるいは会社のほうで、いろんな方策を検討しとるわけですが、上下分離方式というものを考えるという、そういうことを考えるというお考えはないということで聞いてます。昨年の7月ごろから、この計画は出てるわけですが、そこら辺を基本としながら進めたいということがありました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

もう1点、よく聞かれることなんですけども、2つの路線名がこの会社の中にある、また決まったわけなんですけども、今現在はＪＲ西と東に分かれているということもあって、北陸本線から信越本線の乗りかえがあるわけなんですけども、そういったものは解消されるんだろうかという声もよく聞かれるんですけども、このことについては、どんな見通しなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

基本的には、この2路線が1つの会社で運営されるわけですが、私どもも提案の中で、お互いということは1つの会社ですから、直接乗り入れるということも話したことはありますけども、今のところの基本計画の中では、ダイヤの調整はより自分の会社でできるので、綿密なダイヤ改正で調整できますけども、今のところ北陸本線が、また信越本線に乗り入れるというような形での運行計画は聞いておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

聞いていないわけかもしれませんが、市民のほうの要望の中で、やはりそのほうが利便性があるんじゃないかという声があった場合は、市として働きかけていくお考えはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

以前、機会あるときに1つの提案として、私のほうからもそういう提案は、例えば朝晩そのまま乗っていったものを信越本線のほうへ乗り入れて、結構学生あたりは高田方面へ行くのがあるので、そういう提案もしましたが、基本的にはどういう運行。それから信越本線のほうが、どうも単線ということもあって、その辺も含めて行った列車が、また今度は北陸本線に帰ってこなければなりませんので、その辺のダイヤや車両の保有数にも影響するので、今のところ提案はしておりますが、答えが入ってきてないという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

次、記念イベントなんですけど、また来年もこれを続けていかれるということで、来年もラッピング列車は、今のままをそのまま続けていくということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

基本的には、今のキハのラッピングをそのまま利用しますし、これが車検でまた剥がなければならぬようなときまでは、利用していきたいということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番(田中立一君)

そのラッピング等の事業について、乗車客の反応とか評価というものの調査はされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長(金子晴彦君)

沿線等の保育園でラッピング列車を見に行こうとか、それからこれは事業の1つの中で、大野地区の運動会で、このラッピング列車を応援するような催し物をしたり、やっぱり一応反応はあると思います。

ただ、もう少し私どもも全面的にPRをして、例えばダイヤ等もできれば公表して、大糸線をいつ、何時に走るんだということは提案をしておりますが、なかなかダイヤが乱れることを心配して、少し二の足を踏んでることもありますけど、情報としていただいているものは私どものほうで、ホームページでも公表できるときは公表しとる、そういう状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

課長の言われるとおりだと思います。

さらに利用された客からは内部も何とか、別にラッピングじゃないんだけども、内部との違和感といいたいでしょうか、その辺を解消してもらいたいという声がありますが、聞いてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長(金子晴彦君)

最初にラッピングの案を提示したときは、内部もJRのほうもという話も若干いただいたんですけども、その後どうも尻すぼみのようなことなので、その辺も含めてまた来年度以降に向けて、その辺もあわせて提案なり、それから私どものほうでやるのか、また、JRのほうでやるのかということも含めて検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

来年以降も、もっとわくわくする企画を期待して、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

議長(古畑浩一君)

以上で、田中議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。
再開を４時１０分といたします。

午後３時５８分 休憩

午後４時１０分 開議

議長（古畑浩一君）

それでは、休憩を解き会議を再開いたします
引き続き一般質問を行います。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。〔２番 保坂 悟君登壇〕

２番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき１回目の質問を行います。

１、子どもインフルエンザ接種助成事業と子ども医療費助成事業について。

この２つの事業は平成１５年の初当選以来、一般質問で再三取り上げ、平成２２年度に１８歳までを対象にしたインフルエンザ半額助成を実現できました。医療費助成については入院・通院の助成範囲をともに中学卒業までとするように求めてきました。平成２４年度の予算において、１８歳までの子どもインフルエンザ半額助成を廃止し、その予算額分を子ども医療費助成に振り分け、入院は高校卒業まで、通院は小学校卒業までとする制度拡充の提案があり、私は断腸の思いで予算案を認めました。そして今年の９月末、医師会の強い要望により１０月１日付で１３歳までを対象に１回あたり１，５００円のインフルエンザ接種費助成が復活しました。これらの経過を踏まえて伺います。

(１) ２つの制度に対する目的や理念について市の考えを伺います。

(２) ２つの制度は子育て世代には大変重要な事業であります。これらを恒久化すべきと考えますがどうか。

２、学童保育事業について。

学童保育は年を追うごとに設置数を伸ばしてきました。働く子育て世代に大変喜ばれております。その一方で、トラブルや苦情があることも事実です。そこで、現状の課題、今後の対策について伺います。

(１) 学童保育事業で主なトラブルや苦情として、どのようなものがあるか。

(２) 学童保育の先生（指導員）には、正式な資格というものがありません。そこで、これまでの運営経験から市としての指導マニュアルの作成と研修会を行い、サービスを提供すべきと思いますがどうか。

(３) 学童保育の先生（指導員）の確保策については、どのような取り組みをされているか。

3、部長制について。

平成23年3月議会一般質問で部長制の効果について、市長は、「有効に機能している。」と答弁されました。私には各部各課にわたり調整機能しているように思えませんでしたので、部長制をやめて副市長2人体制を提案いたしました。それから1年9か月が経過して多くの問題が山積しています。そこで、以下の点を伺います。

- (1) 市長は課題となっている事業に対し、部課長に明確な指示をされているのか。なぜ問題が起こるのか。
- (2) 11月21日、大野地区の最終処分場再生処理の説明会において、部長発言によって混乱することがありましたが、市長はこの部長権限をどこまで与えているのか。市長のメッセージ等を持たせるべきではなかったのか。
- (3) 市長は各種地域説明会後の部長報告以外に、市民の反応や雰囲気はどうだったか別の視点で確認をしているか。
- (4) 議会の各委員会の様子から、各部各課の調整役が副市長で、部長が担っているように見えない。副市長の負担が大きすぎると思うがどうか。

4、各種事業の取り組み方や周知方法について。

予算化されている事業の中で、周知や取り組みが消極的と市民に思われているものがあります。以下の取組状況を伺います。

- (1) 遊戯室わんぱくホリデーの周知について。
- (2) 障がい者向けのリハビリ教室の送迎サービス復活について。
- (3) 希望する保育園に入園できる体制づくりについて。
- (4) 避難訓練後、今回は総合訓練に当たりますが、地域住民が集まる機会を活かす行政対応について。

具体的には、防災講演会、救急救命講習会、津波被害の映像視聴などをメニュー化し、各防災自治組織に提案すべきと考えます。

5、交通安全対策について。

全国で登下校中の子どもたちが巻き込まれる重大事故が多発しております。そこで、以下の点を伺います。

- (1) 今年4月、文部科学省では通学路の危険箇所について緊急点検をされております。県内では約1,400か所とのことですが、当市の危険箇所はどのようになっていますか。
- (2) この点検を踏まえ、登下校時の交通規制の見直しをする考えはどうか。特に県道姫川港青海線（青海旧国道）の規制が必要と考えるがどうか。
- (3) 青色回転灯パトロール車両の普及はどうか。
- (4) 高齢者免許返納のタイミングを促す取り組みはどうか。
- (5) 衝突回避システムのある高性能自動車の普及はどうか。

6、6次産業化の推進について。

糸魚川市には、野菜作りはもちろんですが、地元の食材を使用して漬物やお総菜、調味料づくりの得意な方がおります。そのような方が、加工品販売を行う場合、自ら加工所を作ると初期投資は大きな負担になります。商売も軌道に乗るか不安であります。また、国県の補助金を利用した既存

の加工施設では目的外使用は認められず、借りることも難しいそうであります。さらに、公民館等では営利目的では使用できないはずであります。そこで、以下の点を伺います。

- (1) 市内の谷ごとに加工所を作り、地域の方が自由に加工品を作る場所を提供してはどうか。
- (2) 行政が加工品販売用にホームページを立ち上げ、インターネットで商品の情報提供を支援してはどうか。
- (3) 加工所を利用し軌道に乗ったところから、自立（起業）をしてもらうルール作りをしてはどうか。
- (4) この加工所で得意な加工品の手作り教室などを開催し、仲間作りの場にしてはどうか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

保坂 悟議員のご質問にお答えいたします。

1番目の子どもインフルエンザ接種助成事業と子ども医療費助成事業、及び2番目の学童保育事業のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

3番目の1点目につきましては、市政運営会議、部課長会議で、また個別にも指示をし、施策の推進や課題の解決に当たらせていただいております。

問題発生の原因はさまざまであり、それぞれの事案に応じて組織を挙げて対応いたしております。

2点目につきましては、部長に部の所掌事務の推進と部内課の調整などの権限を与えておりますが、大野地区の説明会で混乱があったことにつきましては、おわびを申し上げます。

3点目につきましては、日ごろの職務の中で広く市民の意見や考え方をお聞きいたしております。

4点目につきましては、部長の権限や部の枠を超える案件につきましては、職責上、副市長が判断し、調整を行うことといたしております。

4番目の1点目につきましては、これまでホームページや「広報おしらせばん」で周知を図っております。

2点目につきましては、車椅子対応車両の配車時に、リハビリ教室参加者個々の状況を確認した上で、送迎サービスを廃止いたしましたものであります。

3点目につきましては、山ノ井保育園や中央保育園での受け入れをふやしていく対応をしていく予定であります。

4点目につきましては、地区防災訓練実施の手引を作成いたしており、地区役員と相談をしながら、その地区に合った訓練や講座等を提案し、支援をいたしております。

5番目の1点目につきましては、危険箇所50カ所を点検し、この結果を踏まえ、可能なものから改善に取り組んでおります。

2点目につきましては、必要に応じて警察署ほか関係機関と協議をまいります。

また、県道姫川港青海線については、糸魚川警察署では規制が難しいとのことでありました。

3点目につきましては、市として導入してまいります。

4点目につきましては、「広報おしらせばん」や高齢者の交通安全教室などで周知に努めており

ます。

5 点目につきましては、市としての取り組みは考えておりません。

6 番目の 1 点目から 4 点目につきましては、セミナーや異業種間の連携による新たな特産品やサービスの開発等を推進いたしております。

市といたしましては、農林水産物の加工、販売に取り組みたい生産者に対して、県や関係機関、団体と連携をする中で支援をしてまいります。ご提案の内容も今後支援のニーズに応じて、方策を検討していく考えであります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目、インフルエンザの予防接種助成は医師会からの助言もあって、特に低年齢児のインフルエンザの重篤化の未然防止を重視する観点から、改めて助成を行うものであります。一方、子ども医療費につきましては、子育て世代への経済的支援を目的としております。

2 点目につきましては、この 2 つの制度は子育て世代に重要な事業と考えておりますが、社会状況に応じて検討してまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、子ども同士のけんかであったり、指導員と保護者の連絡がうまく伝わらず誤解を生じたり、指導員の子どもへの対応に対する不満等があります。

2 点目につきましては、指導員から積極的に研修に参加いただいております。また、運営マニュアル等も検討してまいります。

3 点目につきましては、公募を基本としておりますが、急を要する場合は、適宜対応することもあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2 番（保坂 悟君）

子どもインフルエンザ接種費助成と、子ども医療費助成についてであります。

ことし 3 月議会で、この予算案が出てきたんですけども、当初、たしかこども課としての解釈は、風邪をひいてから治療するという考え方だったかと思ってます。私は風邪をひかないように予防するという考えでしたが、今はどちらの考えで取り組むように今思っているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

もちろん、風邪をひかないように予防することが大前提だと思います。その上で、予防接種等で未然に防いでいくということを重視してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

私もそのとおりだと思います。ただ、3月時点での考えは違っていたというふうに認識をさせていただきます。訂正があったということですね。

次、医師会よりインフルエンザの接種費助成が強く要望されて、先ほどの答弁にありました重篤化を防ぐということでありましたが、24年度のこの予算を組む段階で、いわゆる医師会、関係団体になるんですけども、こういうところに意見を聴取しないで、この事業を廃止したと、そういうふうに理解してよろしいんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田子ども課長。〔教育委員会子ども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会子ども課長（吉田一郎君）

今年度の予算を編成する際には、医療費の拡充を重視したいという視点で考えていたために、医師会等との助言、または相談をしないままに今日に至りましたが、その後、今年度のインフルエンザ等の流行が非常に懸念されるというようなこともありまして、医師会に助言をいただいたということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ちょっと角度は違いますけど、庁内においていわゆる健康増進課の立場からすれば、こういう考え方をどのように捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

やはりふだんからの健康づくりということを意識しながら、まず予防が第一だというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

この春の予算を組む時点で、今2つの課からそういう言葉をいただく中で、どこで、どういうふうに調整をされているのか。また調整しないで、そのまま事業廃止に踏み切ったのか、その辺の最終判断とかはどこでやられているのか、その辺、ちょっと経過を説明してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

予算を編成するわけですので、関係各課でそれぞれ意見調整をしながら、どういったところを重点的に対応するかということを中心として重視したことで進めてまいっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

私も全然納得できません。この事業廃止については、本当に慎重にやっていただきたいということでありまして、私、トラウマがありまして、過去に糸魚川市の事業の存廃について1つ事例がありまして、過去に介護用の紙おむつの支給対象の拡大を求めたとき、行政はそれに反応して対象拡大はしてくださったんですね。ただ、予算額を全然ふやさないで、その対象人数を700人から800人ぐらいふやして、物すごく安い支給額になってしまって、サービスを受けている方から物すごく不満が出たわけですね。後からは他市との状況を調整しながら額も少し上げていただいて、今現状の制度に落ちついているんですけども、この事業に対しての廃止というものには、やっぱり相当に慎重な扱いをしないと、そのサービスを受けている人たちに、物すごく影響を与えるわけですね。

今後こういうことがないように、ぜひお願いしたいんですけども、もし今回のことは特別なんだというのであれば、ちょっとご回答いただきたいんですけども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

議員から今回のいろんないきさつ等のご指摘を受けておりますが、全体的にはインフルエンザについては新型が出たりして、それらの方向がある程度違った方向にきたことから、市全体の中での財政全体の中で、どこに重点を置くかということで切りかえたというような感じを持っております。

今、議員が指摘されますように、いろんな受けられる制度を廃止、あるいは変更するときには、やっぱり十分庁内で検討して、あるいは市民に不利益にならないように、まずそこら辺をしっかりと詰めながら、今後は進めてまいりたいというふうに思っております。

議長（古畑浩一君）

いや、副市長、ことしだけなんか、来年以降も続けるのかって聞いてるんだけど、そこだけ答えてない。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

これを決めるときに、今ほど副市長が言いましたように、国の考え方が変わったわけでございますし、我々もそれに合わせて、それでじゃあ全部なくすのかということ、そういうことではなくて我々はやっぱり子どもを支援していこうという形の中で、切りかえさせていただいたと思っております。

これから続けていくかという形の中においては、医師会とまた情報交換をさせていただく中で、このまま緊急措置でいいのか、それを恒久化すればいいのかということも、また相談をさせていただきながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

この制度に関しましては、他の自治体と比べても物すごく先進的な取り組みというふうに私は認識しております。さすが日本一の子どもを育てていく糸魚川市だなというふうに思っておりますし、前向きに恒久的な事業の制度を続けていただきたいと思います。

今回に関してはインフルエンザの対象年齢が、昨年までは18歳だと、今回は13歳というふうに年が低くなってしまっているんですけども、この辺の考え方というのは、どのようにこういうふうにしたのか、その辺の経過をお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

今回は13歳未満の子どもたちということを対象にしていますが、13歳未満の子どもたちは2回の接種が必要であるということで、多少の負担の軽減をとということもございまして、主たるところは重篤化を防ぎたい。重篤化になるのは低年齢の子どもだということで、そこを重点化したということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

その理由はわかりました。

ただ、私の周りの状況を見てますと、中学生、高校生については、この冬の時期というのは就職試験であったり、受験であったり、体調管理に非常に気を使う時期でもあります。こういうときに受験とか受ける本人はもちろんなんですけども、やっぱり家族の予防というのも大変重要になります。こういうインフルエンザの助成だとか医療費の助成に関しては、やっぱり子どもがたくさんおられる方にとっては、非常に負担が大きくなるということを考えますと、やはり18歳までの今までの制度というのは、大変いい制度であったというふうに私は思っておりますので、今後この対象年齢を広げていく、そういった考えをお持ちでしょうか、その辺をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

先ほどのご説明でもさせていただいたわけですが、今後、社会情勢とか、また子どもたちの実態等を踏まえながら、検討をさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

前向きな取り組みがされるということを信じております。

続きまして、学童保育の事業についてであります。

私は6月と10月に保護者からのいろんな声を聞きまして、学童保育の苦情の件で担当課のほうに相談をさせていただきました。10月にはアンケートをとって現状把握に努めるということも約束していただきまして、実際に調査も行っていただいて、すごく迅速な対応をしていただいたことに関しては感謝しております。

その上で学童保育の主なサービスとしては、保護者から見ますと安心して子どもを預けられること。特に働いている保護者なんで、仕事の都合で若干おくれたりするわけですね。でも、子どもを預けている関係上、物すごく気を使われるそうなんです、おくれることに対して。そのときの先生の対応とかが非常に気になってしまうんですけども、そういった現状の保護者のニーズというのは、どのような声が上がっているのか、また把握されているのか、その辺お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

子どもたちにしてみれば、一刻も早く家に帰りたいというふうに思ってる子どもたちが多いということは、児童クラブの指導員から聞いているところがございます。そういうこともあったり、また保護者にしてみれば、なかなかそうは思っても行けないという状況があるというようなこともあるわけですが、多少の融通はそこの中では、現場では、きかせているところもあるようにはお聞きし

ますけれども、直接私たちのところに延長とかという声は入ってきておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

要は、急いで迎えに行かなくちゃいけないということで、以前、事故を起こされたケースもあったと伺っております。そういったちょっと柔軟な対応で、10分、15分のおくれは対応してあげてほしいなと思います。

あと学童保育について子どもからの視点といたしますか、感覚からしますと、やっぱり悪いことをしたときにしっかりしかってくれることや、けんかしたときに公平な対応をしてくれること。あとやはりおもしろい、興味のある話をしてくれることが、先生、指導員に求められているかと思うんですが、今の現状で、子どもたちのニーズといったものは、どのような声が上がっているか、または把握されているか、その辺お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

子どもたちのニーズにつきましては、自由に遊びたい、仲のいい友達と遊びたい、そういったことが多いというふうに把握しております。また、勉強等をしたいという子どもたちもおるようでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今、勉強という話をされたんですけども、やはり宿題とか学習の面で、かなり指導員のほうが見てあげているという、そういうケースですか。それともあくまでも預かるだけで、そういったものには、あまり対応されてないということですか。要は学童保育のスタイルがちょっと知りたいんですけども、その辺、糸魚川市としてはどのようにされてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

勉強ということですが、宿題等もありますので、必ずしなきゃならないという強い指導まではしないものの、1つのスケジュールの中に組み入れながら、取り組んでいるというところでございます。

す。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今のことを踏まえまして、学童保育の先生、指導員についての資格について、国や県の動きは今のどのような動きが出ているのか。また、全国的に先生の指導力とか責任について、何かちょっと記事で読んだんですけども、そういった調査の動きがあるようなんですが、その辺はどうなのか。また、この配置人数等のルールづくりとかはどうなのか。

さっき聞きたかったのは、糸魚川市のサービス水準というのが、他市と比べた場合に高いレベルにあるのか、その辺も把握されていれば、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

配置のルールというようなものでございますが、糸魚川市の場合にはローテーションしながら取り組んでおりますので、必ず余裕の指導員がそこにおります。ですので現場のほうでは、ある程度、人数は確保されているものというふうに把握しております。

また調査については、今現在そのようなことはちょっと把握しておりません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

そうしましたら先生方、指導員のほうになるんですけども、他市と比べてないので、あくまでも糸魚川市内のことになるんでしょうけども、先生方のスキルアップのために、年2回ぐらい各施設間の交流、または保護者との。働いている保護者など、なかなか難しいんでしょうけども、懇談会の開催だとか、その働いている保護者に配慮して投書箱というんですかね、意見とかをふだんから投げかけできるように、そういう掲示板だとか、そういった活用をしてコミュニケーションをとっていったほうがいいと思うんですけども、その辺の取り組みは、やっていけばやっている、また今後やっていくようであれば、またそういった取り組みを考えていることを教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

研修等については市内、市外、県外も含めて、参加してもらうようにしてまいっております。

なお、コミュニケーション等については今後の課題として受けとめさせていただきながら、できるだけ保護者といい関係ができるような方法を考えてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ぜひお願いいたします。

今後、この学童保育の先生について、指導員についてであります。今現在、保育士や教員経験者の方が優先的に採用されているようなんですが、子どもの面倒を見ていくという面では、人材確保もなかなか課題になっているということでもあります。

そこでそういう保育士、教員免許がなくても、先ほど指導マニュアルといいますか、一定の研修を受けながら3カ月とか一定の期間やった後に、やる気のある方を採用していく。トライアル雇用制度といいますか、そういうものはやっておられるのか。また、今後やっていくような考えがあるのか、その辺をちょっとお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

今回、それぞれの児童クラブでの諸問題等が把握できましたので、そういったものを見ながらマニュアル的な、または運営について示唆になるようなものをつくる方向で検討してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

それでは3番の部長制についてであります。

いろんな問題があるんですけども、市長に対しての部長報告といいますか、いろんな会議とか説明会に出た後なんですけども、部長の報告というのは、正直、私が受けてる感じだと断片的で、多分、正確に市長に伝わってないんじゃないかなという気がしてるんですけども、その辺の報告の上げ方、また、市長の受けとめ方というのは、その辺は実際にはどうなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今そのように受けとめられているといたしましたら、我々もまた再度いろいろ検討しなくちゃいけないと思ってるわけですが、いろいろ課題によってその手法は違っておりますし、大きい問題になると、もう次の日の朝すぐ報告がありますし、また復命もあったり、また市政運営会議の中で話をしたり、また部課長会議と、いろいろな場があるわけがありますので、そういう中で逐次報告いただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

非常に聞きにくいんですけど、各部長に伺いたいのは、市長から明確な指示が出ているのか。その指示を受けてのいろんな委員会での答弁になっているのか、その辺が非常に議会の委員として出ているときに、ちぐはぐに受けとめてしまうんですけども、それは部長のほうの受けとめ方が、そういうふうな受けとめ方になっているのか、市長の指示どおりにそう発言されているのか、その辺のあれがちぐはぐに映るんですけども、その辺、実際どうなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

基本的な考え方というのは、やはり市長から、あるいは副市長から指示を受けてやります。

ただ、細かい細部については出ない場合もあるということで、先日、今ほどご指摘がありました大野につきましては、十分な調整はされていなかったということで、混乱したんだというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

私なりの見立てでちょっと恐縮なんですけども、何で今回こういうふうな問題が起こるのかという部分で気になってる点は、3つあるんですけども、1つ目は、部長の立場というのは、当然行政マンですわね。今、正直、予算ありきでものを言ってしまう傾向が強いんじゃないかというのが、まず1点です。

2つ目は、市民側に立って、市議員がいろんな委員会で、さまざまな指摘や提案をしているにもかかわらず、改善しようとしている努力というのが、部長、課長も含めてなんでしようけども、努力してるような跡が、なかなか見受けられない。そのまま説明したり、協議しないで回答を言ってしまうりしてるのが、よくないというのが2つ目です。

3つ目は、地域や関係団体に対して、簡単に言えば誠意がない対応が目立つと。それはなぜかというと、行政でいろんなことを決めたり、変更があったらもう即、その関係団体に報告するなり、相談すればいいんですけど、結局後回しにしてしまって、間延びしてしまって、向こうは待ってる

のに何も対応がないって、待ってるところにぼんち行って、結論だけまた言ってしまうという。そういう対応が、本来、問題にならないことまで、問題にできてしまっているように私には映るんですね。

そういったところを、今後どういうふうに改善されていくのか。あと市長と部長との意思伝達というところも、どういうふうに今度改善されていくのか。ちょっと抽象的な話し方で申しわけないんですけども、その辺の改善策をちょっと教えていただきたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ご指摘いただいた点につきましては、これは部長制でなくてもまずいわけでございます。また、そういったことも起き得るわけでありますので、これは部長をなくして課長であったって、同じことが起きるわけでございますので、決してそういうことのないように。

やはりいろんな問題を抱えているのは、私たちが全部一体になって対応できるような、スピーディーなことをしていかなきゃいけないだろうとは思っております。そういうことのないように、我々は今組織の中では対応していきたいと思うわけでありまして、そういったことで部長制でなくして、そういうものを取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

もう部長のほうは訂正されて、ちょっと質問しづらいんですけども、大野区で再生処理の279億円という金額を見て、多分行政マンの立場からすれば、それはもう膨大な金額であるという認識だったと思うんですけども、それは部長の判断での発言だったんですか。それともやっぱり市長、副市長とかと相談した上で、これは到底おぼつかない数字なんだという認識がどこかであって、あそこで発言されたのか。その辺の真意というのが知りたいんですけども、答えられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

私どもはやはり大野に行く前には庁内でもって、きちんとかういった調査結果というものを事前に検討しております。その結果、おおよその方向性というのは出るわけです。ただ今回の場合、十分な調整を図ってなかったというふうに、後から思えばありましたことから、今回、特別委員会のほうで陳謝させていただいたというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今おっしゃられたとおりですね。11月27日の一般廃棄物最終処分場等調査対策特別委員会で集約された項目で、市長、副市長、部長の見解を統一し、無用な混乱を招かぬようにすることとあります。地域にとって最重要課題の説明会等は、やっぱり市長が参加し、市長がみずからの言葉で説明することを望みたいと思います。

また正直、部長に任せるのは酷だとも思いました。問題が多過ぎて、あと副市長の負担も正直言って非常に重いと私は思っております。お願いなんですけども、任期もあと少しではありますが、この12月議会等の間に、各委員会で重要諸問題について部長に任せず、市長の意思で、市長の具体的な言葉で対応を示して、この問題解決を図っていただきたいと思うんですが、その辺、市長の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本来、基本的な部分につきましては、職員が答えようが、役職が答えようが、市長が答えようが、お答えするには1つの行政の答えとして、我々は行っておるわけでありまして。納得いただくか、いただかないかは、やはり皆様方の受けとめ方になるわけでありまして、決してそういうことのないように、我々もしていきたいと思っております。

ですから我々は誰が行けばいいのか、そういうのは本当にいろいろあろうかと思いますが、誠心誠意我々は、いろんな問題、課題について対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ちょっと繰り返しますね。地域にとって最重要課題の説明会等については、やはり市長が出て行って、こういう考えでこうしたいんだということを、きっちり私は言うべきだと思うんですね。

大野に関して言えば、大野地区の中の処分場の特別委員会はもちろんのこと、いわゆる評議員の方まで全部そろえて、市長がどういう回答をくださるのかなというふうに待っておったんですよ。そしたら部長が来て、金額が高くて、とても行政的には無理ですって言われたら、じゃあこれまで最終処理について自分たちはいろんなところ行って研究してきて、大野をよりよくしていきたいという思いでみんなそろってるわけです。そしたら市長は来ない、副市長は来ない、部長はそういうコメントをする。それじゃ最重要課題に対しての行政の取り組みとしては、私は甘いと思うんですね。だから今後はそうならないように、最重要課題においてはきちんと市長の言葉で明確に、こういう対応をしていきますということを言っていたきたいんですね。

その辺、市長、いろんな課題がたくさんありますから大変でしょうけども、それはちょっと約束していただきたいなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

この問題については、当然、私が出向いていくということで捉えております。ただ、しかしこの問題については、我々は大野区の皆様方と1回は、やはり納得いただいた部分があるわけですので、そういう中で我々は進めておるといふ捉え方であったわけでありまして。

そういう中で、また皆様方から再調査という話をいただいて、その調査の結果報告をさせていただいた中で、こういう状況が起きたということで、先ほど言いましたようにおわびを申し上げておるわけでありまして、また、これについて再度検討という話になっていくということであるわけですので、これ1回で終わるわけではございません。まだまだ我々は皆さんに委員会でも申し上げたとおり、これについては実際みんな検証していかなくちゃいけないわけでありまして、今言った金額についても大まかな数字であるわけですので、1項目ずつやはりそういったものはきちっと検証しながら、また皆様方と本当にこれをやっていけるのかどうかというのも詰めていかなくちゃいけないわけでありまして、私といたしましては大きく受けとめさせていただいて、もう1回じゃあ戻すという形でいくという形で、またそれも話をまたこれからしなくちゃいけないわけでありまして、そういったところから始めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

確認です。さっきも言いました。私もそうなんですけど、任期がありまして、市長も任期がありますね。だから今ほど言ったように、これからまだ長くこの問題は続くし、お金もかかるし、地域からのご協力もいただかなくちゃいけない。そういう中で、くどいんですけど任期があるわけですよ。だからこの段階で、きちんとした道筋というか、それを示していただかないと、地域としてやっぱり不安になるわけですね。そこをわかっていただきたいんですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そのようなことから今月の17日に出向いて、また説明会をさせていただきたいということで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

あと数多く各議員からも発言が出てる100ベクレル以下の対応なんですけど、全員協議会でも

ちょっとお伺いしたんですけども、市民にとっての私は市民益という言葉を使っているんですけども、その説明がどうもどこで聞いてても出てこないんですけども、糸魚川市にとって今回のこの受け入れというのは国の法律上、処理上問題ないのは私はわかってるつもりです。

ただ、これだけ不安がある中で受け入れていくという、そのスタンス、それが市民にとってどうなのかというところを本当は説明したほうが、いろんな諸問題の中では解決になるのではないかと考えているんですが、その辺の説明はいかがですか。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩します。

午後4時51分 休憩

午後4時51分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

それについては我々は、いろんな今地域連携をさせていただくわけございまして、市民の皆様方に迷惑をかけないように、そういった形でやっぱり連携をとっていくことが、課題解決だろうと思っております。

いろんな課題について同じ基礎自治体で、今連携をいろいろとってるわけでありまして。そういったことを考えたときに、ただ1自治体だけで、いろんな面に対応できない部分があるわけでありまして、我々のところで何かできるものがあれば、やはり連携をとって進めていかなければいけないだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

大義名分といいますかね、長岡とかは大震災の影響があって、全国から応援いただいた思いから受け入れようというような、そういう動きはわかるんですけども、当市においては、なかなかそういうところが見えないもんですから不安が増幅してるのかと思いますので、そういった点をぜひ説明の中に取り入れていただきたいと思います。

続きまして、4番、各事業の取り組み方、周知の方々であります。

遊戯室わんぱくホリデーについてであります。

4月にスタートしていたと思うんですけども、市のホームページでは11月に案内が掲載されま

した。私かわからないのは新規事業でもありませんし、4月段階でこういった掲載をして、周知すべきと思うんですが、これはどうしてこうなったんでしょうか。

議長（古畑浩一君）

保坂議員の質問の途中でありますが、あらかじめお諮りをさせていただきたいと思います。

質問時間が午後5時を過ぎることが予想されますことから、本日の会議時間を延長いたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

ご異議なしと認めます。

よって、会議時間を延長することと決しました。

それでは答弁願います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

ホームページの掲載については、掲載していたものというふうに思っていたわけですが、大変恐縮なんですが、機械のちょっとトラブルが続いていまして、そのところが把握できていなかったということで、大変申しわけございませんでした。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今の回答で、本当にそれ、正式な回答でよろしいですか。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩します。

午後4時54分 休憩

午後5時05分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします

それでは答弁の準備が整ったようでありますので、答弁を願います。

吉田こども課長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

訂正をさせていただきます。大変申しわけありません。

平成22年7月20日からアップをしておりました。なお、その際、階層の深いところにありましてわかりづらいところであったということで、今年11月10日に、改めてわかりやすい場所にアップし直したということでした。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

そういうことではなくて、事業として予算が組んであったわけですよね、額はどうであれ。そういったものがその間それを見ることができなくて、サービスが受けられなかったわけですよ。そういった失態に対して、担当課ではどういう思いでいるかということですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

大変申しわけありませんでした。

なお、ホームページはそういったことで、なかなか迷惑かけていたなというところがございますが、この事業の開始に当たりましては、「広報おしらせばん」で事前にお知らせもしてまいっていたということもございます。

それにしても、なかなか周知ができなかったということについては非常に申しわけないと、そんなふうにしております。また今後、そういうことのないように、他の事業についても注視してまいりたいと、そんなふうに思います。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

市長、こういう答弁でよろしいのでしょうか。私はすごく疑問に思いました、今。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えします。

いろんなところでやっていたんだけど、目につかなかったという部分もあるということになれば、もう少しやはりそういったものに工夫しなくちゃいけないということ。我々もしっかり受けと

めなくちゃいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

この事態を見て、どういうふうに勘ぐってしまうかということを行いますね。これは利用者数が少ないから、こういう扱いを受けるのか。利用者数をふやしたくないから、こういう扱いをするのか。行政改革の名のもとで、事業の縮小をねらった取り組みなのかというふうに映るんですよ、予算を組んどいてやらないということは。そういうところを重々考えて対応しなきゃいけないですし、今の発言ですと広報で配っているから。今、これだけ文明の力が進んでいて、ホームページでどういうサービスがあるのかなって調べたら、ネットでみんなアクセスして見るわけですよ。広報でやってるから大丈夫です、何ですか、それ。もう一度、答弁をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

本当にそのように要望があったのに、そこへ行かれなかったというのは本当に申しわけなく思っておりますが、我々もやはり決して事業化したやつに対して、そんなに消すためにやるようなことはいたしません。

これからやはり検証の中で、効率が悪いのはどうなんだというのを事業を進める中において反省しながら、やはり事業化していかなくちゃいけないんだろうと思っております。その辺は皆さんからいつもご指摘いただいているように検証しながら、1年たったらやるんじゃないで、その都度やはり進めていかなくちゃいけない。そういうところは、これからはしっかり受けとめなくちゃいけないんだろうと思っておりますので、そういったところをしっかりと指摘していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

じゃあ一言だけ言わせてもらいます。

今この期間サービスを、もしこのことで受けられなかった、この数字というのは決算のときの事務報告書に全然反映されないんですよ。今度その事務報告書で上がってくる数字を見て、次の予算組みをするわけですよ。そういうところに影響があるということを重ねてわかった上で、やっているのかという話だったんです。

でも今、市長のほうから、今後、一切気をつけてくださるということなんで、その言葉を私は受けとめますけども、大きい金額がかかる事業とか、少ない金額の事業だとか、そういうことじゃないんですよ。市民のサービス向上を少しでもよくしていこう、もっと利用してもらおうと、そういう思いで事業に取り組まなかったら意味がないんですよ、意味が、よろしく願いますね。

じゃあ次にいきます。

次、リハビリ教室の送迎がなくなり、参加者が減ったというふうに私は伺っております。つまりこれも同じですよ。少しでもリハビリを推進しようと考えたら、やっぱり送迎は続けるべきだったですね。それ自体が、また障害のある方の外出支援にもなりますし、また、お互いの共有する場と
いいですか、孤立を防ぐためのそういう場にもなるということで、このリハビリ教室については送迎をして、少しでもたくさんの方に集まっていただいて、心身をまたリハビリに専念できるような取り組みにすべきと思うんですが、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

リハビリの送迎サービスが終了いたしましたのは、平成22年度でございました。平成22年度につきましては利用されている方が12名いらっしゃいまして、23年度に関しましては15名の方から利用していただいております。また、終了するに当たりましては、利用されている方に事前にお話をさせていただきまして、それでもというところでご了解をいただきまして、終了をさせていただきました。

また、議員がおっしゃられるように、外出支援というところと同じ障害をお持ちの方が同じ場所で集まるというところでは、非常にいい教室だとは思っておりますが、なかなか外出できない方も中にはいらっしゃいます。その方には訪問リハビリという事業もございますので、そういうところでサービス提供をさせていただいております。また、いろんな教室の中で送迎サービスについて、今後また調査させていただきたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今、調査していただけるという言葉をお願いしたので、ぜひ皆さんの生の声を聞いていただきたいと思っております。

次、保育園の受け入れ体制についてであります。以前、一般質問でも取り上げた内容であります。子どもが生まれた時点で、その年の人数というのは、市としては把握できております。もちろん、市内の居住地についても把握できておるはずですよ。つまり入園希望の多い保育園について、比較的容易に定員の過不足というのが想像できると思っております。その上で施設整備と保育士の確保を図り、保育サービスの向上を図るべきと考えております。

たしか1回目の答弁で、そのような対応をされていくというような答弁があったんですが、再度答弁をいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えいたします。

保護者のニーズについては十分お聞きしながら、対応してまいりたいというふうに考えながらでございます。

今回新しく新築いたしますやまのい保育園等でも定員の増、それから中央保育園の改修等に伴って受け入れ人数を増加しながら、それぞれの保護者のニーズにできるだけ応えるように対応してまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

よろしく願いいたします。

続きまして、交通安全対策のほうに移らせていただきます。

朝の通勤時間帯では職場に急ぐあまり、混んでいる道を避けて脇道を使うことがあると思います。

そこで道路整備や路面のカラー塗装などハード面の対策と、交通規制や自動車、自転車等の交通マナーの向上策、また、子どもの登下校時の注意喚起などソフト面の対策が、さらに必要かと思っています。今回、危険箇所のチェックはされたんですが、総合的に何か取り組みをされておりますでしょうか。その辺、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

春先に重大事故が全国で起きた。それを受けまして5月に入りまして各課連携しまして立しようとか、それから今後の対策をどうするかと、そういうような連絡会議を設けました。その後、各学校からの危険箇所を聴取しまして、それをもとに8月に入りまして道路管理者、それから関係各課が合同で2日間、約50カ所を点検いたしました。

今、議員おっしゃったソフト面、それからハード面をあわせまして、今までやってきたこと、並びに特にハード面につきましては国も助成をしておりますので、それを活用しながら、さらなる安全に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

ただいまの答弁に対して、ちょっと補足をさせていただきます。

50カ所の通学路ということで、緊急合同点検を8月16日と17日に行っております。その中

から、今後対策が着実に、かつ計画的に実施できる箇所ということで協議の結果、5の小学校の通学路で対策必要箇所として11カ所を抽出しておりまして、これを事業化するために単費のやつもありますけども、国、県へ報告しております。また、今月の12月5日に、この11カ所を市のホームページに掲載しております。

対策の内容については、歩道の整備、横断歩道の設置、防護柵、転落防止柵の設置、道路拡幅による歩行空間の確保、路面の着色表示、地下道の照明器具を明るくすることなどであります。

それで先ほど言いました11カ所の内訳は、公安委員会が事業主体となって横断歩道を設置するものが3カ所です。これは平成25年度中に実施することになっております。

11カ所の地域別ですけども、能生地域が2カ所、糸魚川地域が9カ所、青海地域はありませんでした。

また、建設課が事業主体になるものが、先ほどの3カ所のほかに8カ所ありまして、このうち完成しているものが2カ所、現在実施中といいますか、発注になって、まだ工事に着手していないところもありますけども、これが4カ所。単年度で完了するものではなくて、継続事業となっております。そのほかに国の経済対策による地域活性化予備費の予算措置がなされ、これも24年度中に発注する予定が2カ所となっております。これも単年度で終わる事業でなくて、継続事業となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

私もホームページで拝見して、非常に詳しく載っておりましたし、この内容を見たときに、やはり先ほども言いましたが、田沢小学校近くの姫川港青海線ですか、この朝の時間帯にやっぱりちょっとスピードを出す車があるそうで、できれば対応していただきたいという声も上がっておりますので、何とかスピード規制だとか、何かその辺の対応をお願いしたいんですけども、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

ご指摘の県道につきまして、田沢小学校の周辺でございますが、ここはスクールゾーンということで、以前、警察とも協議したことはあるわけでございますが、このスクールゾーンにして規制をかける場合、いろいろハードルといたしますが、高い部分がございます。

学校に近接して児童の通行が多い、幅員が狭いとか、それから地元の理解、あるいは企業の理解、それからその車の交通量、それらを勘案して決められるわけですが、糸魚川警察署では、これらを勘案すると、それは難しいという回答を得ております。

したがって、ソフト面の対策になりますが、児童生徒への注意喚起、それから登校時間帯の

ほうをずらすと。会社へ通う車というのはある程度決まっていますので、それを外すとか、あるいは防犯パトロール員のさらなる協力を得ると、それから交通マナーの遵守の啓発ということで、以前、会社のほうにもその旨をお願いに上がったケースもございますし、またお願いに上がりたい。

それから青海交番ではパトロールをするわけですが、その際、赤色灯をつけてゆっくり走っておるといようなことをやっていただいておりますので、このこともそのような取り組みで対応していきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

そういう対応をずっとかねがねされておる中でも、また市民からこういう声が上がってきてるといことだけは認識していただきたいと思います。

続きまして、あと高齢者の免許返納についてであります。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩します。

午後5時20分 休憩

午後5時22分 開議

+

+

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

高齢者の免許返納についてであります。

公共交通機関が不十分な地域にとっては、自動車は生活必需品であります。一定の年齢になったら、免許を返納しなさいというつもりは甚だありません。ただ、人は加齢に伴い心身機能が低下し、視力や反応速度、集中力などが低下いたします。その結果、運転で事故を起こす可能性が高くなります。

そこで認知症高齢者の自動車運転を考える家族介護のための支援マニュアルというものがございます。運転する本人と家族が、その運転行動をチェックすることで、免許の返納に向けて準備をする機会を促す取り組みをぜひしていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

要は認知症の高齢者に対しては、例えばセンターラインを越えてしまうとか、路側帯に乗り上げてしまうとか、車庫入れのときによく失敗するとか、そういった項目がありまして、それをチェックすることによって、運転技能が低下してきているというものを認識できるものなんですが、そういった取り組みをぜひ行っていただきたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

おっしゃるとおりでございますので、その辺のところもこれも検討させていただきます、調査させていただきます。取り入れられるものであれば、取り入れていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

最後の項目であります加工所についてであります、地元のおばあちゃんたち、また主婦の方が、いろいろおいしいものがつくれるということで、もしやる気があれば、こういったものに取り組めるような対応をぜひ考えていただきたいんですが、担当課のほうではどのような考えか、ちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

市内では、既にもう6次産業化で商品化されているものが、小規模なものも含めて数多く見られます。今年度、なりわいネットワークの創設をさせていただきましたし、また、その中におきましても県の糸魚川振興局の農業普及センターのほうの皆さんからも、6次産業化ステップアップセミナー等を開いていただいて、農業者の皆さんにも参画いただいているところでございます。

今お話のありましたように、おばあちゃんたちの味が生かせるような品物もつくっていただいておりますので、なりわいネットワーク、また、あるいは市の情報等で、積極的にPRしていきたいと思っております。

ちなみに、なりわいネットワークの会員の皆さんが商品化されてるものにつきまして、年末に向けて少しPRをして、年末年始の家庭での食材に使っていただけるような取り組みも今考えておるところでございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

とにかく地域にいるおばあちゃんたちが気軽に集まる場所として、また、そこで商品がつけられるような環境を整えていただくことで、またこの地域の味というものが出るといいますし、また、そこで小遣い稼ぎができる、おばあちゃんだったらお孫さんに何か買ってあげたりとかできる、そういった環境を念頭に置きながら、地域からそういう声が上がったときには、しっかり対応していた

+

だいて、お金もかかることですが、できればどこか第1号として、自由に使える加工所の設置についても真剣に取り組んでいただきたいことを要望して、私の一般質問を終わります。

以上です。

議長（古畑浩一君）

以上で、保坂 悟議員の質問が終了いたしました。

本日は、これにとどめ延会といたします。

午後5時26分 延会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

+

議 員

+

議 員

+